



富山市の遺跡物語



寛文期富山城三ノ丸の外堀跡

総曲輪四丁目地内（旧総曲輪小学校跡地）で行った富山城跡の発掘調査で、寛文元（1661）年に初代富山藩主前田利次入城の際築造された三ノ丸外堀跡を検出しました。外堀は、三ノ丸側を深く掘り込む二段掘りの構造で、写真の左手が三ノ丸側です。（調査の詳細はp10参照）。

年末の寒い12月27日に現地説明会を行ったところ、県内外から約120名が参加され、初めて発掘した幅20m以上の外堀跡の大きさに驚いた様子でした。

目次

史跡この1年	2	X 表彰等	31
埋蔵文化財発掘調査概要報告	6	XI 組織・事業費	31
事業概要			
I 調査一覧	15	研究余話	
II 遺跡地図管理	19	I 魚類遺存体から見た小竹貝塚	
III 史跡の保護・管理	20	(納屋内高史)	32
IV 展示・普及	24	II 富山城下町遺跡出土の人形(狛)について	
V 刊行物	26	(鹿島昌也・小林照子・加藤雄太)	36
VI 活用	26	III 縄文時代の土製耳飾り-富山県内の	
VII 調査研究	28	様相について-	(小林高範) 41
VIII 研修等参加	31	IV 富山町石工伝助について	
IX 寄贈	31	(古川知明)	45

北代縄文広場この1年—平成26年度—

北代縄文広場の管理運営は、長岡地区自治振興会に委託しています。広場や史跡北代遺跡の説明、展示解説、縄文土器づくりや火起こしなど体験学習のお手伝いは、北代縄文広場ボランティアの会が担っています。

平成26年度は地元の長岡地区ふるさとづくり推進協議会との共催でオープン15周年記念フェスティバル“北代縄文サミット—アイヌ文化をととして縄文文化を学び、伝える—”を開催したほか、「縄文冬まつり」「縄文朝市」等、多くの行事が開催され、市民の交流に活用されました。また、平成23年度に解体した堅穴住居の上屋復元を行いました。

●オープン15周年記念フェスティバル“北代縄文サミット”

7月26・27日の両日にわたって、北代縄文広場・長岡小学校等を会場に北海道むかわ町から鶴川アイヌ文化協会の皆さんをお招きして実施した北代縄文サミットでは、アイヌ文化をととして各地の縄文文化との共通性や多様性を学び、自然と調和した固有の文化を守る方策を語りました。

アイヌ文化講演会では、アイヌ民族が迎った歴史を学んだ後、鶴川アイヌ文化協会の皆さんの古式舞踊などを鑑賞し、最後には来場者が参加して一緒に輪踊りを楽しみながら交流しました。アイヌ文化展示解説会では、民具・写真の解説のほか、民族衣装の試着体験もあり、見学者はアイヌ文化への理解を深めることができました。

藤田富士夫氏（敬和学園大学）による縄文文化講演会では、アイヌ民族に伝承されてきた神話や物語を用いて縄文文化とアイヌ文化を交差させた分析により、狩猟採集民の心性に迫ることができました。縄文フォーラムでは、若狭三方縄文博物館 DOKIDOKI 会（福井県若狭町）・農と縄文体験実習館“なじよもん”（新潟県津南町）における縄文時代遺跡等の活用事例が報告され、報告を踏まえ、藤田氏の司会で両団体と北代縄文広場ボランティアの会による座談会が行われ、文化財や史跡の保存は難しいことではなく、「地域にある」、「子どもに残したいもの」を「地域と行政が連携し、情報を共有することで意識を高めあうこと」と締めくくられました。

開館15周年記念ミニ企画展「小竹貝塚の変遷」では、弥生時代の木盾など初公開の出土品のほか、国立科学博物館での人類学的研究を終えて里帰りした小竹貝塚1号人骨等の縄文時代人骨（実物）を特別限定公開しました。8日間の限定公開中にもかかわらず、1000人を超える方々にご覧いただきました。縄文サミットでは埋蔵文化財センター学芸員による解説会も行われ、約80名の参加者から多くの質問が熱心に寄せられました。



鶴川アイヌ文化協会の皆さんとの交流（輪踊り）



アイヌ文化展示解説会での交流

●ボランティア活動推進富山県民会議会長表彰の受賞

富山市北代縄文広場ボランティアの会は、多年にわたる熱心なボランティア活動が地域社会の進展に寄与した功績を認められ、平成 26 年 10 月 25 日にボランティア活動推進富山県民会議会長表彰を受賞しました。

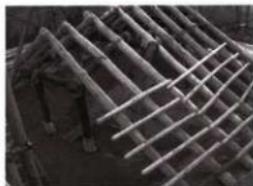
会では、復元建物や展示品の解説、縄文土器づくりなどの体験学習や手作り紙芝居の披露など、悠久の縄文ロマンに思いを馳せ、地域の歴史を学ぶお手伝いをしています。会員は誇りと使命感をもって日々の活動に取り組んでおります。センター職員も含め、今後も研鑽を重ね、お客様に楽しく学んでいただけるよう努めてまいります。

●竪穴住居（復元建物 6）の上屋復元

平成 23 年度に上屋（土屋根）を解体し、建物の長寿命化（目標とする耐用年数を 20 年と設定）に向けた修理工法等を 25 年度まで検討した復元建物 6 の修理工事が終わりました。史跡北代遺跡の第 70 号竪穴住居跡の発掘調査では床面で黄色粘土を主体とした屋根土が確認され、これが根拠となって縄文広場では土屋根の竪穴住居として復元されています。施工性などの観点から、これまでは黒土で屋根が復元されていましたが、史跡北代遺跡復元建物修理検討専門家会議の議論をととして、発掘所見を重視して粘土での屋根復元に挑戦することになりました。史跡保護のために遺跡内で粘土を採取することはできないので、25 年度に行った実験結果を踏まえ、富山県小矢部市産の赤土（瓦用粘土）を母材に川砂等をブレンドした屋根土を用い、赤土屋根の竪穴住居を復元しました。平成 22 年度から実施している工事の概要は北代縄文広場ホームページ（復元建物の修理工事コーナー）で速報しておりますので、ご参照ください。

<http://www.city.toyama.toyama.jp/etc/maibun/index.htm>

(小黒智久)



桁・梁などを再利用/転用して小屋組みました。



樹皮葺き後、木毛セメント板を屋根下地材としました。



雨漏り防止対策と屋根土の流出防止策を講じました。



赤土に軽石を混ぜて軽量化した土屋根を復元しました。



完成した復元建物 6（正面）
（塼壁・跳ね上げ戸があります）



完成した復元原建物 6（背面）
（炉の煙出し穴を設けました）

安田城跡歴史の広場この1年—平成26年度—

安田城跡歴史の広場は、市内の小学校をはじめとする学習活動だけではなく、四季折々の風景を楽しむことができる憩いの場となっています。曲輪をめぐる水堀は睡蓮の名所となっており、見頃となる6月には色とりどりに咲く花を目当てに多くの人々が訪れます。4月には野鳥が飛来し、冬期には雪化粧の立山連峰をバックにした城跡が眺望でき、撮影・写生スポットとしても親しまれています。

また、地元朝日地区の行事会場としても活用され、地域活性化や生涯学習の場となっています。

8月23日には、毎年恒例の「第22回安田城月見の宴」（安田城月見の宴実行委員会主催）が開催され、戦国時代さながらの少年少女武者行列や剣舞、民謡などで賑わいました。夜には堀を囲む千灯もの提灯が水面に映り、城跡を幻想的に演出しました。



●社会に学ぶ『14歳の挑戦』

7月11日、富山市教育委員会が実施した「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」事業において、芝園中学校2年生3名が広場の管理運営業務を体験しました。これは、職場体験やボランティア活動を通して生徒の規範意識や社会性を高めることを目的として毎年行われています。

当日は、資料館で発掘速報展の展示解説会が開催されたため、生徒たちはその準備を手伝った後、来館者に元気に挨拶しながら解説会の資料を配布しました。

また、解説会終了後は、資料館で展示ケースや窓などを掃除したり、野外での除草作業など、広場を気持ちよく利用していただくための裏方仕事に汗を流しました。

積極的に身体を動かし、炎天下での作業も根気強く行う姿に、来場者からはねぎらいの言葉が寄せられました。



●夏休み企画 お城をもっと楽しもう！ペーパークラフト作製体験

8月7日、資料館で児童と保護者35人が、富山城二ノ丸二階櫓門のペーパークラフトづくりを楽しみました。

この櫓門は富山城の中枢を守る重要な役割を果たした門であり、江戸時代にはこの門の石垣を立体的に見ることできる「櫓御門新絵図」が描かれました。ペーパークラフトは、こ



の絵図を基にして当センターが作ったものです。

まず、学芸員から櫓門の役割や、櫓門の石垣が路面電車工事に伴う調査で大手町交差点付近に見つかったことなどを紹介しました。その後、児童らは家族と一緒にペーパークラフトの作製に挑戦し、石垣や土塀、屋根などの細かいパーツをはさみで切り取り、のりで組み立てていきました。約1時間じっくりと取り組んだ後、幅30cm、奥行き20cm、高さ9cmのミニ櫓門ができました。

体験後は安田城跡を熱心に見学する様子もみられ、郷土のお城について楽しく学んだ夏休みの1日となったようです。

●佐伯哲也氏縄張り図展 展示解説会

縄張り図展に合わせて、作製者の佐伯哲也氏(城郭研究者)による解説会を開催しました。

「越中で活躍した飛騨武将の城」展解説会(6月4日)

飛騨の江馬氏が越中に築いた中地山城・論田山城・薄波砦(富山市)の構造は本国の江馬氏城郭と似ており、これは自国の築城技術を導入することで新領土を完全に領有したいという強い執念の表れであると述べられました。

一方、三木氏が越中に築いた樫ノ木城(富山市)の構造は本国の城とは大きく異なり、越後の上杉氏城郭によく見られる畝状空堀群が存在します。これについては、三木氏は飛騨に多くの領土を持っているため、越中に領土的野心はなく、あくまで上杉氏が築城した樫ノ木城を軍役として守備していたにすぎなかったと読み解かれました。各地の城の縄張り図を比較・検討することで、地域の知られざる歴史が見えてくるのが分かりました。

「越前・若狭の主要城郭」展解説会 ～他国の城から自国の城を学ぶ～(11月7日)

富山市婦中町にある山城の富崎城は、城に関連する文献や考古資料が少なく、どのような城であったかがよく分かっていません。越前など各地の守護・守護代の城の事例を参考にしながら、①古代から道路などのインフラが整備され環境が整えられていた、②宗教空間が存在した、③山上に私的居住施設、山麓に公的行事を行う施設があったという富崎城の性格について述べられました。

このように手がかりとなる資料が少ない城の場合、実態を解明することは非常に難しいことですが、各地の城との比較・検討によって可能性を模索していくことが重要であることが分かりました。

佐伯氏には、2年間4回にわたり、縄張り図の展示・解説をしていただきました。縄張り図を一堂に展示することは全国的にも珍しく、縄張り図の面白さを専門家のみならず広く一般の方々を知っていただく貴重な機会となりました。

(大野英子)



埋蔵文化財発掘調査概要報告

調査概要報告1 石室からガラス小玉など出土

二本榎遺跡

(婦中町小長沢地内)

1 遺跡のあらまし

この遺跡は、井田川支流山田川左岸の羽根丘陵上、標高 59～62m の緩やかな丘陵斜面上に立地します。早くから縄文時代中期～晩期の土器や石器が出土する遺跡として知られ、特に多数の石畿が採集されることから、縄文の狩猟センター的な拠点集落と推測されます(『婦中町史 通史編』)。

遺跡の北西約 300m には古墳時代後期の小長沢 3 号墳があります。

2 調査の概要

この古墳は、平成 23 年度に主要地方道小杉婦中線道路改良事業に伴う調査で検出された、古墳時代後期の直径 14m の円墳です。周溝と横穴式石室が検出されました。周溝を含めた全貌が分かる横穴式石室古墳としては、県内でも初めての調査となり、注目を集めました。今年度は、古墳の石室を全て解体し、保存するため発掘調査を行いました。石室を解体する際には、石室の構造や石の積み方、石の材質などを詳細に記録しました。



横穴式石室 (南東から)

調査では、羨道と呼ばれる石室へ向かう通路付近から土製の丸玉が 1 点見つかりました。また石室内から新たにガラス小玉などが出土しました。

3 珍しいスズ酸鉛のガラス小玉

前回の調査では青色ガラス小玉が 1 点出土していました。今回石室内の土を水洗いしたところ、新たに小玉 8 点が見つかりました。青色 5 点、黒色 2 点、黄色 1 点です。

これらの小玉の材質を調べるため、金沢学院大学文化財学科で科学的な分析(蛍光 X 線分析など)を行ったところ、黒色の小玉は泥岩製、黄色の小玉は「スズ酸鉛」を着色顔料としていることが判りました。スズ酸鉛のガラス玉は、富山県では初めて確認されました。北陸では、石川県輪島市稲舟横穴古墳



出土した玉類

群 8 号墳から 1 点のみ出土しており、たいへん貴重な副葬品といえます。このようなガラス玉は、弥生～古墳時代に東～南アジアで広範囲に流通していた稀少なタイプです。

この小玉を二本榎遺跡古墳や稲舟横穴 8 号墳の被葬者はどのようにして入手したのでしょうか、その入手ルートや両古墳の被葬者に関連があるのかなど、今後解明していきたいと思っております。(鹿島昌也)

1 遺跡のあらまし

(八町南地内)

この遺跡は、富山市北西部の神通川左岸、標高6mの氾濫平野に立地し、すぐ南は呉羽丘陵と台地が迫っています。約700m東側には江戸時代前期まで神通古川が流れていました。この氾濫平野周辺には多くの遺跡が分布しています。近年これらの遺跡の発掘調査成果から、奈良時代から室町時代の集落が広く展開していたことが明らかになってきました。

2 調査の概要

今回の調査は工場の建設に先立ち、430㎡を対象に行いました。奈良・平安・鎌倉時代を中心とする溝や井戸を検出しました。

多数見つかった規模の大きい溝は、集落の範囲を区画する溝とみられます。区画溝は、2～3条を一単位とするものと1条だけのものがあります。2～3条からなる溝は、集落の周囲を区画するもの、1条の溝はその内側を細かく仕切るものと推定されます。奈良・平安時代の区画溝も鎌倉時代の区画溝も同じ方位であることから、長期間にわたり、同じ地割を踏襲しながら集落を営んだことがわかります。

鎌倉時代の井戸からは、箸状の細長い木製品が出土しました。食器などが一緒に出土していないことや他の遺跡の事例から、井戸の中や地面に刺し、井戸を鎮めるための祭祀を行った道具と考えられます。



3条からなる鎌倉時代の区画溝

3 周辺の遺跡と「寒江郷」・「寒江荘」

周辺で発掘調査を行った八町II遺跡や百塚住吉D遺跡、北代村巻V遺跡などでは、本遺跡と類似した方位・規模をもつ区画溝が見つっています。2条以上を一単位で区画する溝のあり方も共通します。奈良時代から室町時代にかけて、本遺跡と似た構造をもつ集落が周辺に広がっていたことがわかってきました。

このあたりは、古代に「寒江郷」と呼ばれる集落、中世に「寒江荘」と呼ばれる荘園が存在しました。発掘調査で見つかったこうした集落群が、史料に表れる寒江郷や寒江荘に対比できると考えられます。



奈良～鎌倉時代の出土土器

(野垣好史)

(若竹町・森田内)

1 遺跡のあらまし

この遺跡は、富山市中心部から南へ約6km、神通川支流熊野川右岸の扇状地上、標高約38mに立地する、縄文～中世にわたる集落跡です。地勢は平坦で、遺跡のすぐ南を熊野川支流土川が流れています。

今回調査地から北西へ250mの地点で平成19年度に行った調査では、弥生時代後期の竪穴建物、平安時代の竪穴建物・掘立柱建物、鎌倉時代の掘立柱建物を検出しています。

この一帯は、水源を確保しやすい土地柄もあり古くから人々の生活の場となっていました。

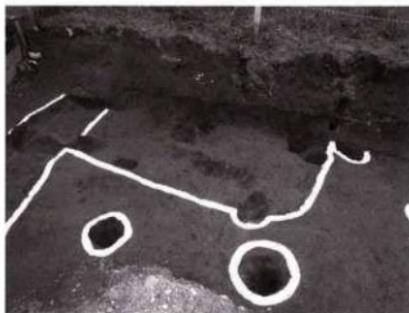
2 調査の概要

今回の調査は、(仮称)熊野コミュニティセンター(公民館)の建設に伴う、擁壁部分の調査で、コの字形の細長い調査区のため全体の様子は把握しづらいものでした。

遺構は、縄文時代後期(約4,000年前)の竪穴建物(一部)、古墳時代前期(約1,700年前)の竪穴建物の一部、奈良・平安時代(約1,300年～900前)の竪穴建物(2棟分)・畑跡などがあります。古墳時代の竪穴建物は一辺が約4mです。

奈良・平安時代の畑跡は、畝と見られる溝が交錯して見つかりました。東西方向6～14mのもの3条、南北方向60cm以上のもの15条があります。耕す方向を変えながら利用されていたことがわかります。

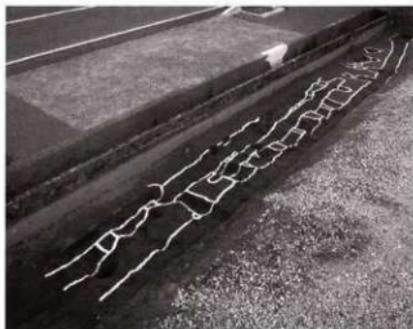
出土遺物は、縄文土器、古墳時代の土師器、奈良・平安時代の須恵器・土師器などがあります。



縄文時代後期の竪穴建物

3 古代の開墾集落の広がり

東に隣接する吉岡遺跡では、奈良・平安時代の竪穴建物や掘立柱建物・畑を検出しました。また周囲4km圏内の上新保遺跡や任海宮田遺跡では奈良・平安時代の竪穴建物・掘立柱建物を多数検出しています。奈良時代と平安時代前期には、大きな開発の波が2度ほどあり、河川氾濫原の扇状地に集落遺跡が増えることが分かっています。



奈良・平安時代の畑跡

今回の調査では、吉岡遺跡とともに縄文時代後期から人々が生活し始め、奈良・平安時代には周辺一帯に開墾集落が増加した様相が分かりました。

(小松博幸)

調査概要報告 4 中世建物の柱穴を確認

とやまのまち
富山城跡

1 遺跡のあらまし

(本丸地内)

調査地は、中心市街地にある富山城址公園内です。旧神通川の自然堤防上に造られた富山城は、戦国時代の天文12(1543)年の築城と考えられ、慶長10(1605)年前田利長により近世城郭として整備されました。室町時代以前も居館が存在したことがわかっています。

今年度は、城址公園整備の池工事に伴う本発掘調査 64 m²と管路工事に伴う工事立会調査を行いました。

2 調査の概要

旧本丸の北部では、2層の遺跡面を検出しました。上層は江戸時代の面ですが、遺構はありませんでした。下層面では土坑、溝を検出しました。土坑は、底面を円形に掘り窪め、中に小さな石を詰めた柱穴とみられます

(右写真)。年代は戦国時代以前と考えられます。建物の方向や規模は不明ですが、掘立柱の建物が存在していたことがわかります。柱穴の東側で検出した南北に延びる溝は、敷地を区切る区画溝の可能性がありそうです。

また、金屋石製の井戸も見つかりました。金屋石は県西部の庄川流域で採掘され、19世紀中頃から金沢城等で盛んに用いられました。城下町では検出例がありましたが、城内では初めて見つかりました。



本発掘調査区の全景と柱穴（北東から）

3 工事立会調査の概要

旧本丸北部において行われた小規模工事に伴う調査では、以下の遺構が確認されました。

①石組み溝(右写真)：玉石を矢羽積した南北方向の溝です。明治時代の排水路とみられます。平成20年度の調査ではこの溝が西に折れ曲がる様子を確認しています。



明治時代の石組み溝

②集石遺構：30～50 cmの割石や玉石が多く埋まった地点がありました。この南側で行った調査では、同じように石材を多量に捨てた穴が見つかりました。石が並んでいる部分もあり、何らかの構造物が存在したと思われる。

③焼土層：複数の地点で地下1mほどの所から赤く焼けた焼土層を確認しました。江戸時代に富山城は幾度か大規模な火災に見舞われており、そのいずれかの大火の痕跡と推定されます。(野垣好史)

調査概要報告 5 寛文期富山城三ノ丸の外堀跡

1 遺跡のあらまし

(総曲輪四丁目地内)

この城跡は、富山市中心部に位置し、本丸・西ノ丸跡が現在富山城址公園です。寛文元(1661)年に初代富山藩主前田利次が入城し、以後富山藩主の居城となりました。廃藩置県後に本丸御殿や二ノ丸二階櫓御門は解体され、また外堀と内堀の一部は埋められ、二ノ丸・三ノ丸跡は民有地に払い下げられました。



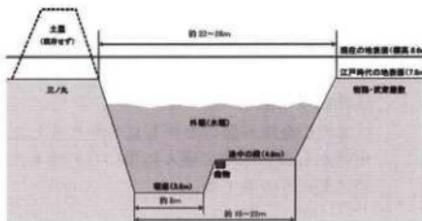
外堀跡 (上が北)

2 調査の概要

総曲輪通り西出口付近にあった、大手門の西約 100m の三ノ丸南辺において、旧総曲輪小学校跡地活用事業に伴い 1,562 m² の発掘調査を行いました。

調査では、寛文元年に築造された外堀跡を確認しました。堀の幅は、東で約 22m、西で約 28m があり、西へ向かって広がっていました。堀幅が大手門から西に向かって広がることは、江戸時代の古絵図『万治年間富山旧市街図』にも描かれており、それが発掘調査で証明されました。

外堀の構造は、三ノ丸側を深く掘り込む二段掘りの構造でした(右図)。堀の深さは、途中の段まで 3.7m (標高 4.9m)、堀底まで 5.0m (標高 3.6m) あり、堀底の幅は約 8m でした。途中の段から堀底には厚さ約 20cm で礫を敷いていました。



外堀の構造模式図

堀の法面勾配は約 35~40° でした。これは、平成 23 年度に西ノ丸北西の内堀で確認した角度とほぼ同様の勾配でした。

堀の底近くからは、江戸時代のかわけ、越中瀬戸・伊万里・唐津などの陶磁器類、銅製仏具(鶴亀燗台)、木製品(漆器・箸)などが多数出土し、外堀南側の武家屋敷から廃棄されたと考えられます。

3 途中の段の底に埋められた曲物

ヒノキやスギなどで作った円形の容器で、井戸の水溜めに使った曲物が、途中の段で検出されました。井戸の上部構造がないため、曲物は外堀を掘った時に設置されたものと考えられます

四ッ屋川などから給水する堀の水を浄化するため、地下水を湧水させる目的であったかもしれません。

(堀内大介)



曲物の出土状況 (矢印の位置)

1 遺跡のあらまし

(総曲輪三丁目内)

この調査区は、富山城三ノ丸の南側から城下町にかけての一角で、北側から順に、三ノ丸土塁・外堀・武家屋敷・背割下水・町屋敷（商家）の順となります。調査区の西に隣接して大手門がありました。外堀と大手門は富山藩期に新たに築造されたもので、平成 20 年度には大手門石垣の一部が見つかり、位置が確定できました。

2 調査の概要

今回の調査は、総曲輪西地区市街地再開発事業に先立ち、3,960 m²を対象に行いました。

調査の結果、江戸時代後期から幕末を主体とした遺構・遺物が見つかりました。遺構には、寛文期の外堀跡・土塁の基礎・背割下水・井戸・廃棄土坑・溝などがあります。

出土遺物には、かわらけ、伊万里・唐津・越中瀬戸・瀬戸美濃などの陶磁器、曲物・漆器碗・下駄・箸・桶型の井戸枠、煙管・かんざし・銭などがあります。

3 町屋敷と武家屋敷を隔てる背割下水を検出

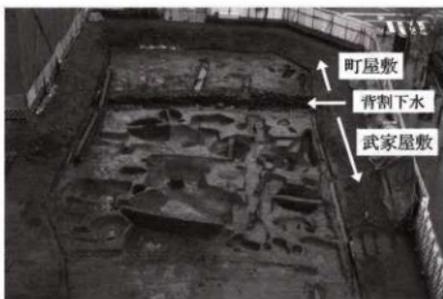
調査区の南では、町屋敷と武家屋敷の境に設置された東西方向の背割下水を検出しました。長さは約 16 mです。背割下水の南側が町屋敷、北側が武家屋敷になります。

背割下水は、幅約 2mで、江戸後期に築かれた背割下水の上に、近代の背割下水を築いています。

江戸期には、両側に 15～30cm 大の玉石を積んでおり、底面には石を敷いていません。近代には底面にも平らな石を敷き詰めるようになりました。今回明らかになった背割下水の変遷や構造は、過去に調査された背割下水の変遷や構造と同じです。出土遺物は陶磁器や木製品があります。

また、町屋敷側から背割下水に向かって細長い敷石が 2列見つかりました。敷石の間の幅は約 1.8mです。町屋敷敷地を区画する目印などが考えられますが、どのような目的かは不明です。

江戸期絵図には、今回の調査区内で背割下水が屈曲して描かれています。しかし調査では屈曲する部分は見つかりませんでした。



町屋敷・武家屋敷地完掘状況（北から）



江戸期の背割下水完掘状況（西から）

この他に廃棄土坑・井戸があります。中からは陶磁器・木製品が出土しました。

4 武家屋敷の調査

武家屋敷の範囲は、背割下水から現在の総曲輪通りまでの間です。万治～寛文期の絵図には「**鱒江主水**」、天保期の絵図には「**鱒江**」、安政元年の絵図には「**鱒江監物**」と記載されており、寛文期から幕末まで一貫して鱒江家が屋敷を構えていました。鱒江主水は馬頭廻、鱒江監物は家老であり、大手門の周辺は番方と呼ばれる城域を警護する武家で固められていました。

遺構は、屋敷地の奥の背割下水付近と東側で、廃棄土坑（ゴミ穴）・井戸・溝などがあります。廃棄土坑は、大きさが直径 4～6m、深さが 1～1.9m の巨大なものです。廃棄土坑からは陶磁器や木製品が大量に出土しました。井戸は少なくとも 4 基あり、幅 10cm ほどの板を組み合わせた桶状の井戸枠が主に使われていました。これらは重複するものがあり、何度も作り変えられたことがわかります。

5 外堀と土塁の調査

総曲輪通りの北側は、富山城の外堀にあたり、三ノ丸の曲輪に土塁、その外に堀が築かれています。今回調査区内には、土塁の基礎部分と外堀が残っており、法面から堀底にかけての様子がわかりました。

堀の深さは現在の地表面から約 5m ありました。法面の勾配は 40° で、西 100m の総曲輪小学校跡地で検出した外堀の構造と同じです。土塁や法面が崩落しないように、法面の途中を平らにして、10～15cm 大の礫を約 40 cm の高さまで敷いています。

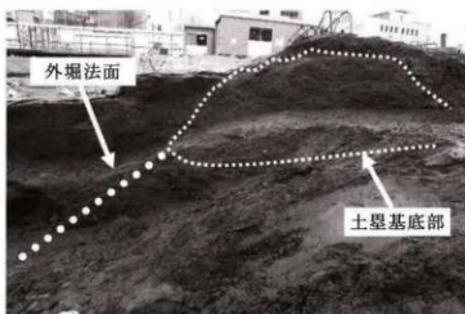
堀の北側で土塁の基礎部分を確認しました。高さ 1.75m、幅 3.7 m です。崩落しないよう砂や礫を混ぜて固める作業を何度も繰り返す「**版築**」という手法で築かれました。元の土塁は高さ 4.5m、基礎部の幅 10m 以上の規模であったと推定されています。

今回の調査では、町屋敷地・武家屋敷地・外堀を同時に確認した、貴重な事例となりました。特に、外堀の土塁基礎部を確認し、絵図のとおり土塁があったことを裏付ける大きな成果となりました。

(細辻嘉門)



外堀検出状況（西から）



土塁基礎から外堀法面の堆積（東から）

調査概要報告 7 武家屋敷内の水屋か

(総曲輪四丁目地内)

1 遺跡のあらまし

この調査区は、富山城下町のうち、外堀周囲に置かれた城域警備の番方武家地の一角にあります。大手門からは130m西に位置します。周辺はほぼ平坦で標高は9mです。

北陸街道に面する武家屋敷では、これまで家老級の戸田式部邸(平成17年度総曲輪フェリオ地区)、中級藩士岩田宇兵衛邸(平成16年度グランドパーキング地区)などが調査され、石組の青割下水路が南の町屋敷地との境に存在し、複数時期の変遷があること、また戦国期以前の水路や溝が存在することなどの成果が得られています。

2 調査の概要

今回の調査は、マンション附属立体駐車場建築工事に先立ち、96㎡を対象に行いました。狭い調査範囲ですが、江戸時代後期の井戸4基、溝、廃棄土坑、ピットなど多数の遺構が検出されました。

井戸は、深さ1.59mで、中央に直径約1mの石組井筒があります。井筒の下半分は30cm前後、上半分は15cm前後の大きさの川原石を積んでいます。中からは近世陶磁器、井筒周囲の掘り方からかわらけが出土し、井戸の作られた時期は近世以前と考えられます。溝は、屋敷境の溝と思われます。

遺物は、幕末19世紀代の肥前系陶磁器・越中瀬戸が多く、墨書や線刻されたものもあります。他に瀬戸美濃などの陶磁器・かわらけ・瓦器・銅製品などがあります。



調査区全景(東から)



石組井戸の検出状況(南西から)

3 武家屋敷地の水屋か

19世紀代の陶磁器には、「(曾)川小林」と朱書きされたものが6点あります。安政元(1854)年『越中富山御城下絵図』には、調査区付近は「小林貞右衛門」屋敷であり、陶磁器の時期と一致することから、朱書きされた陶磁器は小林邸に属するものと考えられます。

調査区の土壤に含まれる珪藻(藻類)の化石を分析した結果、小型のものが多く検出され、この場所が湿度の高い環境であることがわかりました。狭い範囲に井戸が集中して見つかったことから、ここが武家屋敷の中で水を取り扱った水屋として利用されたことを示しています。

(細辻嘉門)

1 遺跡のあらまし

この遺跡は、常願寺川下流左岸の沖積平野に位置し、標高は 5m です。平榎集落の東側の常願寺川堤防付近にはかつて「平榎城」と呼ばれた城跡があったと伝えられています。

平榎城は河内国枚方城の城主であった禁崎(野崎)政光の子、政彌が永正元(1504)年に築城し、天正初め頃に越後の上杉謙信に攻められ落城したと伝えます(『平榎城』)。数度の常願寺川の洪水で、場所は不明となり、戦国史上にほとんど登場することのない幻の城です。

付近には野崎氏の家臣林氏の家老屋敷があったとも伝えます。

2 調査の概要

県営ほ場整備事業に先立ち、平成 26 年 9 月から平成 27 年 1 月に平榎亀田遺跡と浜黒崎野田・平榎遺跡にまたがる 22ha を対象に、試掘調査を実施しました。

その結果、平榎集落東側の水田一帯に、中世後期～近世の堀・溝・井戸などの集落を示す遺構を多数検出しました。

堀は、V 字形に切り込んだ薬研堀や、片方の斜面が緩やかな片薬研堀があります。堀や溝からは、かわらけ・瀬戸美濃焼・珠洲焼・青磁などの陶磁器類のほか、漆器・下駄なども出土しました。

遺構群の広がり北端には、幅 3m の東西方向の道路跡がありました。

この他、弥生時代や平安時代の遺構・遺物も見つかっています。

3 幻の平榎城か

平榎集落の東側で確認された中世後期～近世の遺構の広がり、東西約 180m、南北約 180m の規模があり、幻の戦国期平榎城に関連した遺構と推定されます。ここでは幅の広い堀とみられる溝が東西南北方向に延びることから、複数の曲輪が存在していた可能性があります。今後の調査により、城館遺構の配置や規模、構造などの詳細を解明していきたいと思えます。

(平榎地内)



調査区近景 (東から)



城館の北側を東西に横切る遺跡か (北から)



堀跡からの漆器出土状況 (点線は堀の斜面)

(鹿島昌也)

I 埋蔵文化財調査

1 調査実績

発掘調査 開発に先立ち、遺跡を記録保存することなどを目的とした調査です。

遺跡名(遺跡№)	所在地	調査原因	面積(m ²)	調査結果	遺跡の種類
八ヶ丘A (2010229)	八町南	工場建築	430	平安漢、平安井戸、鎌倉土坑、鎌倉井戸/縄文(晩)土器、平安須恵器、平安土師器、鎌倉珠洲、鎌倉著状木製品、鎌倉板状木製品	集落
富山城跡 (2010442)	総曲輪4丁目	マンション建築	96	江戸漢、江戸井戸、江戸土坑、江戸柱穴/江戸越中瀬戸、江戸瀬戸美濃、江戸唐津、江戸伊万里、江戸不明製製品	城跡
富山城跡 (2010442)	本丸	城址公園整備工事	64.22	中世漢、中世柱穴/中世かわらけ、中世珠洲、江戸かわらけ、江戸越中瀬戸、江戸伊万里、江戸瓦	城跡
二本塚(2010634)	福中町小長沢	主要地方道小杉婦中線道路改良工事	400	古墳(後)横穴式石室墳、不明製炭土坑/縄文土器、平安須恵器、古墳土玉、古墳石室石材	集落・古墳
若竹町(2010684)	森田字三石町割	(仮称)熊野コミュニティセンター建築	109	縄文(後)～(晩)壱穴建物、古墳(前)壱穴建物、古墳(後)溝、古代壱穴建物、古代土坑、不明壱穴建物、不明ヒット、不明溝/縄文(後)～(晩)縄文土器、古墳(前)土師器、古墳(後)土師器、古代須恵器、古代土師器	集落
富山城跡 (2010442)	総曲輪3丁目	総曲輪西部地区市街地内開発事業	3,960	江戸菅沼下水、江戸漢、江戸土坑、江戸井戸、江戸越中瀬戸/江戸越中瀬戸、江戸肥前陶磁器、江戸かわらけ、江戸漆器、江戸曲物、江戸下駄、江戸著、江戸井戸枠、江戸煙管、江戸管、江戸銭貨	集落・城跡
計6件			5,059.22		

試掘調査 開発予定地内の遺跡の有無などを確認する調査です。*は立会調査

遺跡名(遺跡№)	所在地	調査原因	面積(m ²)	調査結果
大村(2019008)	海津通字古城跡割	個人住宅建築	429.12	遺跡なし
黒黒崎町領 (2010014)	黒黒崎字領	個人住宅建築	259.47	遺跡なし
大塚(2010017)*	大塚西	市道眞羽本郷大塚線改良工事	1,386	古墳(中)溝、古代土坑、中世土坑、江戸溝、不明土坑/古墳(中)古式土師器、古代土師器、古代柱、中世土師器、中世珠洲、江戸越中瀬戸、江戸伊万里、江戸陶器、不明漆器、不明木製品
今市(2010023)	赤目	駐車場造成工事	70	江戸陶磁器
今市(2010023)	赤目	個人住宅建築	338.5	遺跡なし
今市(2010023)*	赤目	市道赤目10号線道路改良工事	32	中世～江戸土坑/中世～江戸陶磁器
今市(2010023)	八町	個人住宅建築	107	遺跡なし
今市(2010023)	赤目	太陽光発電システム設置工事	530.45	遺跡なし
森(2010031)	森	個人住宅建築	498.33	江戸陶器
森町(2010033)	森町5丁目	個人住宅建築	561.26	遺跡なし
森町(2010033)	森町5丁目	個人住宅建築	662.73	遺跡なし
珠田大塚 (2010034)	朱田町1丁目	共同住宅建築	2,538.67	古代溝、古代土坑、古代ヒット/古代須恵器、古代土師器
飯野新塚 (2010038)*	新塚字大坪割	県単飯野農業村整備事業新築地区水路整備工事	63	遺跡なし
黒黒崎飯田 (2010041)*	黒黒崎	黒黒崎地区配水管布設工事	136	江戸陶磁器
黒黒崎野田・平塚 (2010042)	野田・早稲田割	県営ほ場整備事業	55,770	中世堀、中世溝、中世土坑、江戸溝、江戸土坑/縄文土器、縄文磨製石斧、弥生土器、古墳土師器、古代須恵器、中世土師器、中世井戸、中世珠洲、中世著、江戸越中瀬戸、江戸唐津、江戸伊万里、江戸瀬戸美濃、江戸瀬戸
平塚電田 (2010048)	平塚一審割	県営ほ場整備事業	165,230	弥生(終)～古墳(前)溝、弥生(終)～古墳(前)土坑、平安漢、平安土坑、中世堀、中世溝、中世土坑/縄文土器、縄文石斧、弥生土器、古墳(前)土師器、平安土師器、平安須恵器、中世土師器、中世珠洲、中世著
針原中町目 (2010052)	針原中町	駐車場造成工事	59	遺跡なし
宮栗南(2010055)*	町袋	公共マシ設置工事	8.3	不明土師器
水橋寛町・辻ヶ堂 (2010056)	水橋辻ヶ堂	駐車場造成工事	2,500	古代須恵器、江戸曲物、江戸～近代陶磁器
水橋寛町・辻ヶ堂 (2010056)*	水橋辻ヶ堂	市道水橋辻ヶ堂新道6号線外1線改良工事	45	遺跡なし
水橋寛町・辻ヶ堂 (2010056)	水橋辻ヶ堂	個人住宅建築	305.42	遺跡なし
水橋寛町・辻ヶ堂 (2010056)	水橋辻ヶ堂	住居建築	1,100.28	遺跡なし
水橋寛町・辻ヶ堂 (2010056)*	水橋辻ヶ堂	工場建築	62.08	縄文漢、弥生漢、江戸溝/縄文土器、縄文石斧、弥生土器、江戸陶磁器
龍海寺城跡 (2010091)*	龍海寺平水口	個人住宅建築	49.67	遺跡なし
砂川カタダ (2010098)	栗老田	個人住宅建築	88.8	遺跡なし
貝割コウゾバラ (2010149)	貝割町字水上	個人住宅建築	242.32	遺跡なし

道跡名(道跡№)	所在地	調査原因	面積(m ²)	調査結果
道分茶屋長割Ⅱ (2010185)	道分茶屋字長割	個人住宅建築	410.82	道跡なし
北代布巾Ⅱ (2010181)	北代	個人住宅建築	434.38	道跡なし
北代中尾 (2010183) *	北代字中尾	携帯電話基地局アンテナ設置工事	9.09	道跡なし
八町Ⅱ(2010228)	八町南	埋設物調査	3,906.4	弥生土器、中世土師器、中世珠洲焼、江戸陶磁器
八ヶ山A (2010229)	八町南	駐車場・資材置場造成工事	4,262	平安溝、平安土坑、平安ビッド/平安土師器、平安須恵器
百塚住吉D (2010235)	宮尾	個人住宅建築	137.65	道跡なし
百塚(2010237)	百塚	宅地造成工事	932.32	古代土師器
豊丘町(2010242)	高園町	個人住宅建築	229.06	平安ビッド/平安土師器、平安須恵器
豊田大塚・中吉原 (2010246)	豊田本町2丁目	公民館建築	250	平安溝、平安土坑/縄文土器、弥生土器、平安土師器、平安須恵器、平安土鐘
豊田大塚・中吉原 (2010246)	豊田本町1丁目	宅地造成工事	1,000.24	弥生土器
中富居(2010251)	中富居	共同住宅建築	909	道跡なし
中富居(2010251) *	中富居	市道鎌田横田町線改良工事	14	道跡なし
中富居(2010251)	中富居	共同住宅建築	986	道跡なし
飯野小吉町 (2010253)	新屋字大豆焼割	個人住宅建築	498	道跡なし
宮成(2010261)	宮成	個人住宅建築	729.14	道跡なし
水橋金広・中馬場 (2010286) *	水橋中馬場	市道水橋高寺田伏2号線外1線改良工事	33	中世溝/中世土師器、江戸陶器
田伏・松野竹 (2010298) *	水橋田伏	市道水橋高寺田伏2号線外1線改良工事	40	弥生(終)弥生土器
吉作南Ⅱ (2010364)	吉作	太陽光発電事業	4,306	道跡なし
杉谷古墳群 (2010409) *	杉谷	特高受電設備工事	43.7	道跡なし
呉羽山丘陵古墳群 (2010410)	杉谷字三ツ谷	送電鉄塔建設工事	225	古墳周溝/なし
金屋古屋敷 (2010420) *	金屋	市道金屋21号線改良工事	74	不明集石遺構/不明磁器
友坂(2010429)	福中町下条	個人住宅建築	578.3	道跡なし
友坂(2010429) *	福中町友坂	市道下条友坂線流濁溝整備工事	36	江戸陶器
寺町向田 (2010435)	寺町字向田割	個人住宅建築	365.72	道跡なし
富山城跡 (2010442)	桜木町	立体駐車場建設工事	490	道跡なし
富山城跡 (2010442) *	丸の内3丁目	ガス供給管理設工事	3	道跡なし
富山城跡 (2010442)	総曲輪4丁目	統合小学校跡地活用事業	11,436	戦国堀、戦国溝、戦国土坑、江戸堀、江戸溝、江戸土坑/戦国かわらけ、戦国珠洲、江戸かわらけ、江戸越中瀬戸、江戸唐津、江戸伊万里、江戸瓦器
富山城跡 (2010442)	丸の内2丁目	個人住宅建築	133.56	近現代石組水路、近現代土坑、不明河川跡/近現代陶磁器、近現代瓦器
富山城跡 (2010442) *	大手町	国道41号富山地区事故対策事業計画地内	450	江戸土坑/江戸陶磁器
富山城跡 (2010442)	総曲輪3丁目	総曲輪西地区市街地再開発事業	5,686	江戸外堀、江戸土坑、江戸骨割下水/江戸陶磁器
千石町(2010444) *	千石町4丁目	給水管設置工事	5	江戸土師器、昭和瓦、不明土師器、不明瓦
千石町(2010444)	千石町2丁目	共同住宅建築	145.94	江戸河川跡、江戸土坑/江戸伊万里、江戸唐津、江戸越中瀬戸、江戸下駄、江戸木製品
千石町(2010444)	千石町4丁目	埋設物調査	2,257.13	古墳溝、戦国溝、戦国土坑、江戸溝、江戸土坑/古墳土師器、戦国土師器、江戸土師器、江戸越中瀬戸、江戸陶磁器
千石町(2010444)	千石町6丁目	個人住宅建築	84.46	道跡なし
千石町(2010444) *	千石町4丁目	建売住宅建築	17.8	江戸土坑、江戸溝/弥生土器、江戸陶磁器
向新庄(2010451)	向新庄町2丁目	(仮称)主要地方道富山上市跡道跡地合交付金改良工事	145.74	道跡なし
二本塚(2010534)	福中町小長沢	主要地方道小杉福中線地方特定道路構築工事	494.64	道跡なし
新町Ⅲ(2010538)	福中町新町字大塚	個人住宅建築	499	道跡なし

道跡名(道跡No.)	所在地	調査原因	面積(m ²)	調査結果
下邑(2010542)	婦中町小長沢	個人住宅建築	499	道跡なし
黒崎種田(2010550)	黒崎	業務用駐車場造成工事	1,728	道跡なし
黒崎種田(2010550)	黒崎	個人住宅建築	250.01	道跡なし
黒崎種田(2010550)	黒崎字塚田割	共同住宅建築	803	道跡なし
八日町(2010551)	八日町	駐車場造成工事	559	道跡なし
八日町(2010551)	八日町	共同住宅建築	194.67	道跡なし
八日町(2010551)	八日町	都市計画道路西荒屋黒崎線工事	2,900	道跡なし
八日町(2010551)	八日町	埋設物調査	4,434.6	道跡なし
朝菜町島ノ木(2010555)	堀田町字島ノ木割	個人住宅建築	142.14	道跡なし
朝菜町島ノ木(2010555)*	堀田町字坂ノ下割	共同住宅建築	250	古代土坑、古代土版、古代灰瀝器、古代土師器、不明鉄製品
山室西田(2010559)	山室字西田割	山室二区公園基礎整備工事	14,100	道跡なし
本郷樺木(2010561)	本郷町字樺木割	分譲宅地造成工事	265.58	道跡なし
本郷樺木(2010561)	本郷町字樺木割	特別養護老人ホーム建設	3,615	道跡なし
上堀(2010563)	本郷町字樺木割	個人住宅建築	293.48	道跡なし
大宮町(2010571)	大宮町	公民館建築	911	不明土師器
新名(2010572)*	石屋	石屋地区配水管布設替工事	129.2	道跡なし
富崎(2010604)	婦中町富崎	事務所建築	378.81	道跡なし
千里D(2010633)	婦中町千里	分譲宅地造成工事	3,815	道跡なし
中名V(2010649)	婦中町中名字北浦	個人住宅建築	618.62	道跡なし
中名V(2010649)	婦中町中名字北浦	個人住宅建築	200	道跡なし
中名V(2010649)	婦中町中名字北浦	分譲宅地造成工事	792.62	不明土師器
友杉(2010653)	友杉字北条田割	個人住宅建築	260.63	道跡なし
友杉(2010653)	新保	消防学校跡地内農業用排水路付替工事	390	道跡なし
任海宮田(2010654)	任海字桜町割	個人住宅建築	498.72	道跡なし
任海宮田(2010654)*	任海	市道任海1号線改良工事	62	江戸陶磁器、不明鉄製品
惣在寺塚寺(2010669)*	下栗山	市道惣在寺2号線改良工事	35	道跡なし
下熊野(2010672)	安養寺	駐車場造成工事	1,581	弥生土器
下熊野(2010672)	安養寺	駐車場造成工事	459.66	江戸陶器
二俣(2010674)*	石田	市道石田7号線改良工事	35	道跡なし
辰尾(2010688)*	上熊野、辰尾	市道安養寺上熊野線外2線改良工事	110	江戸陶磁器
布市(2010693)*	布市	車庫建築	22.12	道跡なし
間(2010699)	間	個人住宅建築	326.15	道跡なし
間(2010699)	間	個人住宅建築	54.65	道跡なし
西番中割B(2010708)	西番字南割	個人住宅建築	150	道跡なし
黒田(2010744)	八尾町黒田字古園屋	個人住宅建築	598.96	道跡なし

遺跡名(遺跡No.)	所在地	調査原因	面積(m ²)	調査結果
黒田(2010744)	八尾町黒田	資材置場造成工	567	遺跡なし
黒田(2010744)	八尾町黒田字東留目	土地売買	337.95	遺跡なし
井田(2010745)	八尾町井田	事務所兼工場建築	552	古代土師器、古代須恵器
滅鬼(2010750)	八尾町滅鬼	滅鬼神明社拜殿の建て替え工事	63.75	遺跡なし
滅鬼(2010750)	八尾町滅鬼字ハザマ	個人住宅建築	330.81	縄文穴、縄文土坑/縄文土器
新村(2010761)*	新村	方浄園施設中継ポンプ場等解体工事	330.41	遺跡なし
杉瀬(2010769)	杉瀬	個人住宅建築	286.24	遺跡なし
大井(2010773)*	大井	市道月岡青柳上今町外3線改良工事	43	遺跡なし
蔵王神社(2010851)	八尾町福島字上野	個人住宅建築	400	縄文(中)溝、縄文(中)土坑、縄文(中)ピット、縄文(中)遺物廃棄場/縄文(中)縄文土器、縄文(中)石錘、縄文(中)凹石、縄文(中)蔽石、江戸越中瀬戸
蔵王神社(2010851)*	八尾町福島字上野	個人住宅建築	23	縄文(中)遺物廃棄場/縄文(中)縄文土器、石製品
舟倉西山(2010958)*	舟倉字西山割	猿倉山森林公園施設撤去工事	500	遺跡なし
庵谷(2010999)*	庵谷	市道庵谷片掛線消雪配管工事	875	遺跡なし
今生津(2011000)	布尻	個人住宅建築及び駐車場造成工事	271	遺跡なし
富山城下町遺跡主要部(2011048)	越前町	駐車場造成工事	249.12	江戸土坑、江戸溝/江戸かわらけ、江戸越中瀬戸、江戸陶磁器、江戸土人形
計115件(*31)			542,641.59	

25年度 補遺(3月)

浜黒崎野田Ⅱ(2010043)*	浜黒崎	市道浜黒崎横越線改良工事	75	遺跡なし
本郷水上(2010562)	本郷町水上割	宅地造成工事	548	遺跡なし
東老田Ⅱ(2010087)	東老田	個人住宅建築	248.14	遺跡なし
富山城跡(2010442)*	本丸	城址公園整備	1,500	江戸土坑/中世かわらけ、江戸かわらけ、江戸越中瀬戸、江戸肥前系陶器、江戸陶磁器、江戸釘、不明石臼
朝菜町島ノ木(2010555)	堀川町字坂ノ下割	個人住宅建築	350	遺跡なし
大宮町(2010571)	大宮町	大宮町中央公園施設整備工事	1,500	遺跡なし
二俣(2010674)	二俣	個人住宅建築	454	古代土坑、古代溝/弥生土器、古代須恵器、古代加工木、江戸伊万里、江戸唐津
黒崎種田(2010550)	黒崎字寺田割	盛土造成工事	1,944	遺跡なし
針原中町Ⅱ(2010052)	針原中町字小深田	墓地拡張工事	2,634	中世溝、中世土坑、中世ピット/弥生土器、中世土師器、中世珠洲、中世瀬戸美濃、中世越前、江戸越中瀬戸
岩瀬天神(2010005)	岩瀬吉志町	倉庫建築及び駐車場造成工事	354.37	遺跡なし
黒崎種田(2010550)	黒崎字種田割	土地売買	872	遺跡なし
山室東田(2010560)	山室字東田割	土地売買	1,089	遺跡なし
北代中尾(2010183)*	北代	車庫建築	46.91	遺跡なし

II 遺跡地図管理

富山市内の史跡・埋蔵文化財包蔵地の総数は1,047ヶ所、総面積は約73.34k㎡です(平成27年2月末現在)。これは市域1,241.77k㎡の約5.91%にあたります。これら史跡・埋蔵文化財包蔵地は富山市遺跡地図に掲載され、平成27年4月からインターネットで閲覧することができます(詳細は下記(3)をご覧ください)。

(1) 平成26年度の埋蔵文化財包蔵地の範囲変更等

No.	遺跡	面積 (㎡)	変更内容
1	東福沢遺跡 (2010795)	14,300	西側範囲縮小
2	富山丸山古墳 (2010774)	2,650	位置変更
3	富山城跡 (2010442)	343,000	南側・東側範囲縮小、北側範囲拡大
4	富山城下町遺跡主要部 (2011048)	144,000	北側・北東側範囲拡大
5	吉作北Ⅹ遺跡 (2010109)		名称変更(旧称:吉作北Ⅳ遺跡)

(2) 地区毎の遺跡数・面積

地区	遺跡数	他の地区にまたがる遺跡数	遺跡面積 (㎡)
富山	604	大沢野(2)、婦中(8)、大山(1)	29,716,289
大沢野	89	富山(2)、大山(1)、細入(1)	3,117,830
大山	84	富山(1)、大沢野(1)	29,753,905
八尾	93	婦中(7)、山田(2)	3,016,430
婦中	146	富山(8)、八尾(7)、山田(2)	5,515,603
山田	19	八尾(2)、婦中(2)	201,270
細入	36	大沢野(1)	2,015,050
計		1,047 遺跡	73,336,377

(3) 遺跡地図のインターネット公開

平成27年4月から遺跡地図を富山市ホームページで公開します。富山市内の史跡・埋蔵文化財包蔵地の範囲と遺跡名称・所在地等の概要を閲覧できます。建築・土木工事、各種開発の手続きや地域の歴史を知るために役立ててください。

閲覧は、富山市ホームページのトップページから、「インフォマップとやま」→「まちづくり情報マップ」→「遺跡地図」の順に進んでください。閲覧にあたっては利用条件をご確認ください。



遺跡地図のパソコン画面

Ⅲ 史跡の保護・管理

1 北代縄文広場

(1) 管理

① 管理運営委託等

A 管理運営

地元の長岡地区自治振興会に広場の管理運営を委託しました。振興会が配置した管理人と富山市北代縄文広場ボランティアの会の会員が常駐し、広場の管理や展示解説、体験学習のお手伝いなどを行いました。

B 環境整備

広場の草刈、堅穴住居の燻し、樹木の雪吊りなどは公益社団法人富山市シルバー人材センターに委託しました。この他、倒木等の伐採や樹木剪定を行いました。

C 受賞

富山市北代縄文広場ボランティアの会は、多年にわたる熱心なボランティア活動が地域社会の進展に寄与した功績を認められ、平成 26 年 10 月 25 日にボランティア活動推進富山県民会議会長表彰を受賞しました。

② 視察

内閣総理大臣補佐官木村太郎衆議院議員、田畑裕明衆議院議員（平成 26 年 7 月 23 日）
文化庁文化財部記念物課整備部門 中井将胤文化財調査官（平成 26 年 6 月 12～13 日）

③ 社会に学ぶ 14歳の挑戦

広場管理運営・土器づくり体験指導補助等（ボランティア等指導）

芝園中学校（3名） 平成 26 年 7 月 7 日～7 月 11 日

呉羽中学校（5名） 平成 26 年 7 月 8 日～7 月 11 日

④ その他

「越中富山ふるさとチャレンジ」（同実行委員会）のスタンプラリーに協力しました。

平成 26 年 4 月 1 日～9 月 30 日

(2) ミニ企画展

	テーマ	期間	主要展示品	入場者数	展示解説会
1	富山地域の縄文遺跡(5) 豊田大塚・中吉原遺跡	平成26年4月1日 ～7月13日	縄文土器、土偶、御物石器、石刀、垂飾、打製石斧、磨製石斧、石鏃、剥片、石槌ほか	5,756人	
2	開館15周年記念 小竹貝塚の変遷	平成26年7月15日 ～1月12日	小竹貝塚1号人骨(特別公開)、縄文土器、けつ状耳飾、玉砥石、玉、磨製石斧、木盾、弥生土器、木鍔未製品、土師器、須恵器	4,260人	平成26年7月27日
3	富山地域の縄文遺跡(6) 吉作遺跡	平成27年1月16日 ～3月31日	縄文土器（イノシシ形の装飾をもつ縄文土器を含む）、土偶、石刀、磨製石斧、焼成粘土塊	1,015人 (2月末現在)	

(3) 施設老朽化対策事業

広場のオープンから 15 年が経過し、復元建物（土屋根堅穴住居・茅葺高床倉庫）などが老朽化しています。そこで、平成 22 年度から国・県の指導の下、復元建物等の長寿命化を

目的とした改修工事を7ヶ年計画で実施しています。

事業では、建築学・鉱物科学・林産加工学・木材物理学・保存科学・考古学の専門家からなる史跡北代遺跡復元建物修理検討専門家会議を組織し、会議の検討結果を踏まえて修理工事を実施しています。土屋根堅穴住居の建築・維持管理（修理）の標準設計・仕様の一つとして発信することも目指しています。平成26年度は次の①～③の修理等を行いました。

①復元建物修理工事

平成25年度に調達・加工・乾燥させたクリ丸太材・樹皮等を用いて、復元建物6（堅穴住居）の上屋を復元しました。また、赤土屋根での復元の適否を判断するために25年度に実施した実験結果を史跡北代遺跡復元建物修理検討専門家会議で検討し、承認を経て、赤土屋根で復元しました。長寿命化を目指した工夫も随所に施され、北代縄文広場での土屋根堅穴住居の修理工法を確立させることができました。

②史跡北代遺跡復元建物修理検討専門家会議

A 平成26年6月13日 復元建物6の土屋根の施工方法の検討に供するために設置した屋根試験体の経過観察結果について、文化庁中井將胤文化財調査官の同席の下で専門家による検討を行いました。さまざまな議論を経て、これまでの黒土屋根ではなく、発掘調査成果に基づき赤土屋根として復元することが決定されました。

B 平成26年12月1日 工事中の復元建物6を視察して現地指導いただくと共に、指導内容を工事に反映させました。また、土屋根堅穴住居を建築／修理する際に重視すべき点について、各委員の専門分野ごとに意見交換し、情報共有を図りました。これらを踏まえ、事業最終年度に刊行予定の事業報告書作成に向けて、準備を進めることとしました。

③復元建物1・2・3・5（堅穴住居）環境調査一屋内温湿度計測、土間温度計測一

専門家会議委員の宮野秋彦氏・宮野則彦氏により、屋内温湿度と土間温度の定時観測（1時間ごと）を継続しています。

専門家会議委員（敬称略）

氏名	分野	備考
宮野 秋彦	建築学	名古屋工業大学名誉教授
清水 正明	鉱物科学	富山大学理学部長・教授
藤井 義久	林産加工学	京都大学大学院農学研究科教授
宮野 則彦	木材物理学	日本大学生物資源科学部准教授
佐野 千絵	文化財保存学	(独)国立文化財機構東京文化財研究所 保存修復科学センター保存科学研究室長
西井 龍儀	考古学	富山考古学会会長

(4)長岡地区等行事

①長岡地区自治振興会

縄文朝市（平成26年5月～12月の第2・4土曜日、全13回）

②長岡地区ふるさとづくり推進協議会

富山市北代縄文広場オープン15周年記念フェスティバル“北代縄文サミットーアイヌ文化をとおして縄文文化を学び、伝えるー”（平成26年7月26日、埋蔵文化財センターと共催）

縄文冬まつり（平成27年1月17日）

③北代三区町内会

北代三区住民納涼大会（平成26年8月2日）

(5) 来場者数

年度	個人	団体	合計	土器づくり体験	縄文グッズづくり体験
24	6,450人	920人	7,370人	478人	96人
25	6,600人	1,249人	7,849人	330人	370人
26(27年2月末現在)	9,446人	1,585人	11,031人	392人	197人

(参考) 平成11年4月～27年2月末の累計来場者数 145,091人

2 安田城跡歴史の広場

(1) 管理

① 管理

管理人1名が常駐し、資料館及び広場の管理や来場者への案内・解説を行いました。清掃業務及び広場の環境整備(芝刈・樹木剪定・除草)は、公益社団法人富山市シルバー人材センター及び財団法人富山市婦中公園緑地管理公社に委託しました。

この他、広場南端にある高木化したシラカシ2本の伐採・処分を行いました。

② 社会に学ぶ 14歳の挑戦

広場管理運営補助 芝園中学校(3名) 平成26年7月11日

③ その他

「越中富山ふるさとチャレンジ」(同実行委員会)のスタンプラリーに協力しました。
平成26年4月1日～9月30日

(2) 展示

① ミニ企画展

	テーマ	期間	主要展示品	入場者数(人)	展示解説会
1	城館からの出土品	平成26年10月7日～平成27年1月12日	願海寺城跡漆器・取瓶、新庄城跡古瀬戸・埴埴・銅製小柄、太田本郷城墨書土器ほか	1,620	
2	中世のくらしと木の道具	平成27年1月20日～3月31日	小出城跡漆器、水橋金広・中馬場遺跡木摺臼・双六盤・木簡ほか	575 (2月末現在)	平成27年1月30日

② 佐伯哲也氏 縄張り図展

	テーマ	期間	主要展示品	入場者数(人)	展示解説会
1	越中で活躍した飛騨武将の城	平成26年5月20日～10月5日	縄張り図32点(中地山城、薄波砦ほか)	11,994	平成26年6月4日
2	越前・若狭の主要城郭	平成26年10月21日～平成27年3月31日	縄張り図32点(一乗谷城、小丸城ほか)	1,887 (2月末現在)	平成26年11月7日

(3) 自主事業

夏休み企画 お城をもっと楽しもう!
～ペーパークラフト製作体験(富山城櫓御門)～
平成26年8月7日 35名参加

(4) 地元行事

第22回安田城月見の宴
(安田城月見の宴実行委員会主催)
平成26年8月23日



中世のくらしと木の道具展 展示解説会

(5) 来場者数

(人)

年度	個人	団体	合計
24	8,550	3,439	11,989
25	15,113	1,306	16,419
26(27年2月末現在)			

(参考)

平成5～27年2月末
の累計来場者数
175,015人

3 史跡王塚・千坊山遺跡群

(1) 公有化事業

弥生時代後期から古墳時代前期の集落跡と墳墓の計7ヶ所で作られる史跡王塚・千坊山遺跡群（王塚古墳・勅使塚古墳・千坊山遺跡・六治古塚墳墓・向野塚墳墓・富崎墳墓群・富崎千里古墳群）では、平成23年度から公有化事業に着手しています。

4年目となる平成26年度は、千坊山遺跡 3,460㎡、勅使塚古墳 4,865㎡、六治古塚墳墓 409.85㎡、合計 8,734.85㎡の公有化を行いました。

現在までに当事業で公有化した土地の累計面積は 48,713.28㎡（81.7%）で、事業実施前からの市有地 3,754㎡と平成24年度寄附地 62㎡を合わせると、史跡内の市有地の総面積は 52,529.28㎡になります。

全体計画

対象遺跡	公有化面積(㎡)	筆数	地権者数(人)
千坊山遺跡、勅使塚古墳、六治古塚墳墓、向野塚墳墓、富崎墳墓群、富崎千里古墳群	59,629.27	245	101

公有化進捗状況

年度	遺跡名	公有化面積(㎡)	筆数	地権者数(人)
23	千坊山遺跡	1,067.00	12	7
	六治古塚墳墓	1,416.29	6	
	小計	2,483.29	18	
24	千坊山遺跡	22,904.18	96	23
	勅使塚古墳	8,037.00	7	
	小計	30,941.18	103	
25	千坊山遺跡	6,553.96	34	19
26	千坊山遺跡	3,460.00	12	23
	六治古塚墳墓	409.85	6	
	勅使塚古墳	4,865.00	18	
	小計	8,734.85	36	
	合計	48,713.28	191	72

(2) 維持・管理

① 除草管理

- 千坊山遺跡・六治古塚墳墓・勅使塚古墳（公有地部分 43,794.43㎡）
公益社団法人富山市シルバー人材センター委託による草刈1回
- 千坊山遺跡内古里小学校旧運動場（6,299㎡）
古里小学校PTAによる草刈1回

② 暴風被害対策

- 六治古塚墳墓 近隣宅地への倒木被害防止のための樹木の伐採・処理
- 勅使塚古墳散策路 富山市婦中町総合行政センター農林商工課による倒木の処理

4 県・市指定史跡等管理等

(1) 国・県指定

①文化財パトロール

富山県が委嘱した文化財保護指導委員（富山市域 5 人）による定期的な国・県指定文化財、埋蔵文化財等の状況調査

区 別	名 称	保護の意見等
史跡	北代遺跡、直坂遺跡、安田城跡	なし
埋蔵文化財包蔵地	新庄城跡、八町遺跡、蛭ヶ森貝塚、小竹貝塚、富山城、古沢塚山古墳、清水堂古墳、小出城跡、宮塚古墳、若王子塚古墳、高来遺跡、野田遺跡、大村城跡、水橋荒町・辻ヶ堂遺跡、そうけ塚、日方江城跡	なし

(2) 市指定等

①除草

堀 I 遺跡（5・7・8 月）、友坂二重不整合（5・8 月）、押上遺跡・栗山塚・古沢塚山古墳・境野新遺跡（5 月）

②公有化

堀 I 遺跡 平成 27 年 3 月 土地開発基金保有用地の買戻し（705 ㎡）

IV 展示・普及

1 発掘速報展

(1) 発掘速報展 2013「城と城下町を掘る」（埋蔵文化財センター企画 民俗民芸村主催）

考古資料館 平成 26 年 4 月 26 日～5 月 25 日 入館者数 747 人

展示遺跡 順海寺城跡、新庄城跡、富山城下町遺跡

主要展示品 須恵器、土師器、中世土師器、瀬戸美濃、伊万里、硯、土人形、木札など

(2) 発掘速報展 2013 巡回展「城と城下町を掘る」

安田城跡資料館 平成 26 年 6 月 27 日～9 月 30 日 入館者数 6,117 人

展示遺跡 順海寺城跡、新庄城跡、富山城下町遺跡

主要展示品 須恵器、土師器、中世土師器、越中瀬戸、伊万里、硯、土人形、木札など

2 業務関係施設企画展等

(1) 考古資料館（民俗民芸村所管：学芸員業務）

テーマ	期間	主要展示品
ミニ企画展「展示品のここに注目！①あな」	平成26年6月24日～9月21日（90日間）	小竹貝塚玦状耳飾、杉谷A遺跡ガラス小玉、任海宮田遺跡石帯など
企画展「考古資料にみる花と実のデザイン」	平成26年9月23日～12月7日（77日間）	浜黒崎野田・平覆遺跡耳飾り、栃谷南遺跡軒丸瓦、米田大覚遺跡墨書土器など

3 遺跡発掘調査現地説明会

(1) 富山城跡

平成 26 年 12 月 27 日（土）

参加者数 120 名

旧総曲輪小学校内発掘調査現場

富山城跡において外堀の発掘調査は、今回が初めてです。



4 講座

(1) 富山市民大学（市民学習センター主催）

① 富山・「道」の考古学

回	講師	学習題	開催月日
1	古川知明所長	道と文化交流	5月20日
2	近藤顕子専門学芸員	石の来た道	6月3日
3	大野英子主査学芸員	弥生文化を運んだ道	6月17日
4	小黒智久主査学芸員	古墳分布からみた古墳時代の富山の道	7月1日
5	細辻嘉門主査学芸員	地面に残った道の跡を探る	7月15日
6	堀内大介主査学芸員	古代北陸道—官衙・駅・郷を結ぶ道—	9月2日
7	鹿島昌也主査学芸員	呉東と呉西を結ぶ道—古代から近世—	9月16日
8	野垣好史主査学芸員	富山南部の鉱山を巡る道	10月7日
9	中本八穂主査学芸員	「みち」行く人—飛騨街道の往来—	10月21日
10	古川知明所長	【現地学習】北陸街道・飛騨街道	11月11日

② 富山市民大学プラネット（大沢野生産学習センター）

郷土史

1	中本八穂主査学芸員	大沢野の歴史 記憶と伝承、遺跡の生成	5月15日
2	木本秀樹嘱託	越中古代社会の諸相—近年の研究成果から—	8月7日

(2) 市役所出前講座

遺跡からみた富山の歴史

回	講師	演題	主催者・会場	参加者数	月日
1	堀内大介主査学芸員	小竹貝塚の概要説明	寒江地区社会福祉協議会／小竹貝塚現地	50	5月29日
2	鹿島昌也主査学芸員	城と城下町を掘る～水橋と富山の城の最新調査から～	水橋西部ふるさとづくり推進協議会／玉永寺	40	6月25日
3	小林高範主査学芸員	近年の富山城下町の発掘調査から	ニコニコそくさい会／奥田神社事務所	18	8月22日
4	古川知明所長	月岡地区の遺跡と石造物	月岡校下ふるさとづくり推進協議会／月岡公民館	45	8月23日
5	鹿島昌也主査学芸員	まちなか地下1mの富山城・城下町 2014	富山インターネット市民塾推進協議会／タワー111ビル	115	8月23日
6	野垣好史主査学芸員	富山城・城下町の発掘調査	五福末広町社寿会／五福末広会館	24	9月17日
7	大野英子主査学芸員	呉羽山丘陵古墳群を歩いてみよう	富山市立朝日小学校／呉羽山丘陵古墳群現地	65	10月2日
8	細辻嘉門主査学芸員	遺跡からみた富山の歴史—富山城を中心に—	月岡福寿会連合会／月岡地区センター	53	11月11日
9	鹿島昌也主査学芸員	水橋荒町・辻ヶ堂遺跡にみる日本海文化	こしのみちのなか／割烹まる十	予定20	3月18日

(3) その他講座

古川知明所長 県民カレッジ高岡地区 ふるさと発見講座 「利長の城下町づくり—富

山・高岡の築城と町立ての比較― 平成 26 年 11 月 22 日 ウイング・ウイング高岡
50 人

5 その他

(1) 社会に学ぶ 14 歳の挑戦

芝園中学校 (3 名) 平成 26 年 7 月 7 日～7 月 11 日

[業務] 図書整理・出土品整理・北代縄文広場管理・安田城跡歴史の広場管理

(2) 市民バス教室

平成 26 年 10 月 15 日 安田城跡歴史の広場 (星井町地区)

(3) マスコミ

富山シティエフエム・中継隊 「北代縄文館開館 15 周年記念ミニ企画展『小竹貝塚の変遷』」7 月 24 日 小黒智久主査学芸員

V 刊行物

1 発掘調査報告書

No.70 富山城下町遺跡主要部発掘調査報告書(2014,8)

No.71 富山市八ヶ山A遺跡発掘調査報告書(2015,3)

No.72 富山市内遺跡発掘調査概要XIV(2015,3)

No.73 富山城下町遺跡主要部発掘調査報告書(2014,12)

No.74 富山市若竹町遺跡発掘調査報告書(2015,3)

No.75 富山市二本榎遺跡発掘調査報告書(2015,3)

No.76 富山市内石造物調査報告書IV(2015,3)

No.77 富山市内遺跡発掘調査概要XV(2015,3)

2 PR 誌・展示図録等

富山市の遺跡物語 No.16 富山市教育委員会埋蔵文化財センター所報 (2015,3)

北代縄文通信 第 39 号 (2014,10)、第 40 号 (2015,3)

VI 活用

1 出土品貸出

	貸出先	展示名	展示期間	資料名
1	富山県埋蔵文化財センター	ふれる標本箱タッチ・ザ・DOKI	26,4,1 ～27,3,31	岩瀬天神遺跡ほか市内遺跡出土土器片 30 点
2	富山県埋蔵文化財センター	企画展「古代へのとびら 2014」展	26,4,10 ～26,8,31	今市遺跡近・現代遺物
3	富山市郷土博物館	企画展「大集合!富山城の「瓦」たち」展	26.7,12 ～26.9.28	富山城跡出土瓦
4	富山県埋蔵文化財センター	特別展「富山の史跡 50 年」展	26.9.12 ～26.11.9	千坊山遺跡弥生土器、安田城跡中世土師器ほか 8 点
5	横浜市歴史博物館	企画展「大おにぎり展―出土資料からみた穀物の歴史」展	26.10.11 ～26.11.24	西二俣遺跡炭化米塊、千原崎遺跡炭化麹塊ほか 4 点
6	富山市郷土博物館	企画展「富山城以前の富山」展	26.12.13 ～27.3.1	新庄城跡出土品

	貸出先	展示名	展示期間	資料名
7	富山県埋蔵文化財センター	ミニ考古学博物館 in 太田公民館	27.1.17	太田本郷城跡出土墨書土器ほか5点
8	長野県立歴史館	春季企画展「山と海の廻廊をゆくー信濃と北陸をつなぐ道ー」展	27.2.28 ～27.5.17	水橋荒町・辻ヶ堂遺跡墨書土器、転用硯、石製帯飾り7点

2 写真等資料掲載

- (1) 安田城跡空撮写真 碧水社編 週間『日本の城』73号 デアゴスティーニ (平成26年6月3日)
- (2) 白鳥城跡本丸発掘状況写真 碧水社編 週間『日本の城』88号 デアゴスティーニ (平成26年9月30日)
- (3) 豊田大塚・中吉原遺跡の面墨書土器写真 神奈川県藤沢市編『大地に刻まれた藤沢の歴史Ⅴ～古代～』
- (4) 豊田大塚・中吉原遺跡の面墨書土器写真 読売新聞北陸支社編『北陸からみた日本史』洋泉社 (平成27年2月19日)
- (5) 安田城空撮写真 『FLASH スペシャル』光文社 (平成27年2月20日発売号)
- (6) 王塚古墳現況写真、千坊山遺跡土器写真 グレイル編『古墳の地図帳』辰巳出版 (平成27年3月5日)
- (7) 吉作遺跡出土品写真 『文化財発掘出土情報』株式会社ジャパン通信情報センター (平成27年3月予定)

3 資料調査等

- (1) 平成26年5月22日 東京大学堀内秀樹准教授 富山城下町遺跡出土陶磁器等調査 (対応者 鹿島主査学芸員)
- (2) 平成26年6月19・20日 京都大学文化財総合研究センター富井助教 開ヶ丘中山Ⅲ遺跡、開ヶ丘狐谷Ⅲ遺跡出土縄文土器調査 (対応者 近藤専門学芸員、納屋内囑託)
- (3) 平成26年6月25日 長野県立歴史博物館傳田専門主事、中野専門主事 水橋荒町・辻ヶ堂遺跡出土遺物調査 (対応者 小林主査学芸員)
- (4) 平成26年6月27日 東京藝術大学水本和美非常勤講師、小田原市教育委員会藤掛泰尚臨時職員 富山城下町遺跡出土陶磁器等調査 (対応者 鹿島主査学芸員)
- (5) 平成26年7月22日 横浜市歴史博物館高橋健学芸員 千原崎遺跡炭化粃米等調査 (対応者 鹿島主査学芸員)
- (6) 平成26年8月18日 奈良大学大学院生桃井氏 小竹貝塚出土人骨調査 (対応者 堀内主査学芸員、納屋内囑託)
- (7) 平成26年8月7・8日、10月20・21日 (独)産業技術総合研究所長秋雄主任研究員 富山城跡石垣の帯磁率調査 (対応者 野垣主査学芸員)
- (8) 平成26年10月2日 魚津埋没林博物館 千石町出土埋没樹木調査 (対応者 古川所長)
- (9) 平成26年10月3日 富山大学大学院理工学研究部柏木健司准教授 千石町出土埋没樹木調査 (対応者 古川所長)
- (10) 平成26年10月30日 福島大学共生システム理工学類木村教授 千石町出土埋没樹木調査 (対応者 古川所長)
- (11) 平成26年11月4・6日 上野章 西金屋窯跡出土円面硯調査 (対応者 鹿島主査学芸員)
- (12) 平成26年11月20日 上野章 室住池Ⅴ遺跡出土硯調査 (対応者 小林主査学芸員)
- (13) 平成26年12月10日 富山大学大学院理工学研究部柏木健司准教授 富山城下町遺跡

- 主要部地山堆積状況調査（対応者 細辻主査学芸員）
- (14)平成 27 年 1 月 16 日 富山大学大学院理工学研究部柏木健司准教授 富山城跡地山堆積状況調査（対応者 堀内主査学芸員）
- (15)平成 27 年 2 月 20 日（公財）富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 町田尚美 古沢窯跡、西金屋窯跡出土円面硯調査（対応者 鹿島主査学芸員）

Ⅶ 調査研究

1 調査

- (1)真興寺宝篋印塔調査 平成 25 年 11 月～26 年 5 月（古川）
- (2)正源寺宝篋印塔調査 平成 25 年 11 月～26 年 11 月（古川）
- (3)最勝寺宝篋印塔・法華塔調査 平成 26 年 4 月～26 年 6 月（古川）
- (4)射水市高德寺宝篋印塔調査 平成 26 年 4 月～26 年 6 月（古川）
- (5)立山町柳津親鸞聖人分骨堂石造物調査 平成 25 年 8 月～26 年 10 月（古川）
- (6)宝寿院宝篋印塔調査 平成 26 年 6 月～26 年月（古川）
- (7)上赤江町地藏堂石仏調査 平成 26 年 6 月（古川）
- (8)千石町埋没林調査 平成 26 年 5 月～8 月（古川）

2 調査協力

- (1)富山県立山・黒部信仰遺跡調査 富山市山岳部調査成果の情報提供
- (2)独立行政法人産業技術総合研究所地圏資源環境研究部門 長秋雄主任研究員
富山城石垣石材等の岩石帯磁率調査協力
- ①8 月 7・8 日 富山城石垣帯磁率調査
- ②10 月 20・21 日 富山城石垣、早月川・片貝川石材帯磁率調査
- (3)石川県金沢城調査研究所 金沢城関連城郭等情報連絡会
- ①4 月 25 日 26 年度事業計画・七尾城視察（古川所長参加）
- ②7 月 30 日 関連城郭初期の様相報告
古川知明「富山城・初期の様相」
- ③2 月 26 日 講習会 金沢城の初期の様相

3 論文・報告・紹介

富山市内の遺跡に関連するものを含みます。

(1)関係職員等

- 大野英子 2015,3 「富山市各願寺前遺跡の一括出土銭について」『富山市考古資料館紀要』第 34 号 富山市考古資料館
- 小黒智久 2014,7 「新潟県佐渡市台ヶ鼻古墳石室の再検討」リ・コメント『古代学研究』第 202 号 古代学研究会
- 小黒智久（編著） 2014,10 『古墳と縄文文化』 高志書院
- 小黒智久 2015,3 「弥生時代後期～古墳時代前期の河川環境と遺跡動態—富山市打出遺跡焼却建物跡 SI01 の発掘調査成果が示す諸問題—」『富山市考古資料館紀要』第 34 号 富山市考古資料館
- 小黒智久・相田泰臣・金田拓也 2014,9 「第 19 回東北・関東前方後円墳研究会 総合討論の記録「古墳築造周縁域における古墳時代前・中期の社会と地域間関係」」『東北・関東前方後円墳研究会』連絡誌第 37 号 東北・関東前方後円墳研究会
- 鹿島昌也 2014,10～2015,3 「水橋西部地区の遺跡とお城(1)～(6)」『広報あませ』第 162～167 号 水橋西部ふるさとづくり推進協議会

- 鹿島昌也・小林照子・加藤雄太 2015,3 「富山城下町遺跡出土の人形(狎)について」『富山市の遺跡物語』№16 富山市教育委員会埋蔵文化財センター
- 中本八穂 2015,3 「富山城跡出土実包について」『富山市考古資料館紀要』第34号 富山市考古資料館
- 木本秀樹 2014,2 「平成25年度特別研究発表会要旨 貞観五年越中・越後国大地震と諸様相一祥瑞と災異との間で」『富山史壇』第173号
- 木本秀樹 2014,4 「川にみる営みと精神性—古代越中国のひとつこま」『綺羅』32号
- 木本秀樹 2014,8 「古代越中国からもたらされた祥瑞—その時代背景」『綺羅』33号
- 木本秀樹 2014,11 「近江国と越中国—古代社会のひとつこま」『綺羅』34号
- 木本秀樹 2015,3 「越中国司となった唐人—皇甫東朝」『綺羅』35号
- 小林高範 2015,3 「有峰のオオカミ護符について」『大山の歴史と民俗』第18号 大山歴史民俗研究会
- 小林高範 2015,3 「縄文時代の土製耳飾り—富山県内の様相について—」『富山市の遺跡物語』№16 富山市教育委員会埋蔵文化財センター
- 納屋内高志 2015,3 「魚類遺存体から見た小竹貝塚」『富山市の遺跡物語』№16 富山市教育委員会埋蔵文化財センター
- 野垣好史 2014,5 「2013年の考古学会の動向 古墳時代 北陸」『月刊考古学ジャーナル』№656 ニューサイエンス社
- 藤田富士夫 2014,5 「飛鳥の神奈備山の比定に関する実景論的考察」『人文社会科学研究所年報』№12 敬和学園大学
- 藤田富士夫 2014,5 「装身具」『講座日本の考古学4 縄文時代(下)』青木書店
- 藤田富士夫 2014,7 「縄文文化とアイヌ文化」『富山市北代縄文広場オープン15周年記念フェスティバル 北代縄文サミット資料集』長岡地区ふるさとづくり推進協議会
- 藤田富士夫 2014,9 「北陸の飾玉生産と翡翠の遺跡」『縄文』第26号 国際縄文学協会
- 藤田富士夫 2014,11 「伝飛板蓋宮跡から見た飛鳥の神奈備山について—実景から探る—」『野外調査研究所報告』第22号 NPO法人野外調査研究所
- 古川知明 2014,5 「富山県地方史研究の動向 考古学関係」『信濃』第66巻第6号 信濃史学会
- 古川知明 2014,7 「神通川石工石屋浅吉について」『富山史壇』第174号 越中史壇会
- 古川知明 2015,3 「弥勒菩薩形墓石について—富山県中央部における近世丸彫石仏形墓石の一形態—」『大境』第34号 富山考古学会
- 三辻利一・古川知明・小黑智久・平川ひろみ・太郎良真妃・白井菜実 2014,12 「開ヶ丘遺跡 群出土土器の蛍光X線分析」『情報考古学』Vol.20 №1・2

(2) 市内遺跡を取り扱ったもの

- 石川県金沢城調査研究所編 2014,3 『城郭石垣と石切丁場の調査・研究』
- 島田修一 2014,10 「富山発掘物語 安田城跡—よみがえった越中攻め前線拠点—」『埋文とやま』Vol.128 富山県埋蔵文化財センター
- 長岡地区ふるさとづくり推進協議会 2014,7 『富山市北代縄文広場オープン15周年記念フェスティバル 北代縄文サミット資料集』
- 西井龍儀 2015,3 「富山市中世石造物の石材利用」『富山市考古資料館紀要』第34号 富山市考古資料館
- 町田賢一 2014,7 「最新の発掘から 縄文前期の低湿地性貝塚と埋葬人骨—富山県富山市小竹貝塚—」『季刊考古学』第128号 雄山閣
- 町田賢一 2014,10 「出土品が語る小竹貝塚」『埋文とやま』Vol.128 富山県埋蔵文化財セン

ター

- 町田賢一 2014.11 「研究発表大会発表要旨 富山市小竹貝塚の発掘調査成果について」『富山史壇』第175号 越中史壇会
水澤幸一 2014.5 「北限の高地性集落と古墳の出現」『季刊考古学』第127号 雄山閣

4 講演・研究発表

富山市内の遺跡に関連するものを含みます。

- 中本八穂 「北代縄文人のくらしと知恵」平成26年度悠久の森歴史講演会 平成26年8月31日 富山県埋蔵文化財センター
木本秀樹 「平安期の災異と思想—貞観五年・康和元年地震と越中国—」富山県民生涯学習カレッジ友の会総会 平成26年4月21日 富山県教育文化会館
木本秀樹 「近年における越中古代史研究の成果から—越中関係木簡・墨書土器の出土—」西田地方公民館ふるさと教養講座 平成26年11月25日 西田地方地区センター
野垣好史 「近世富山城下町の発掘調査」北陸都市史学会 平成26年8月3日 福井市立郷土歴史博物館
納屋内高史 「動物遺存体から見た小竹貝塚—2008年度出土資料を中心として—」日本動物考古学会第2回大会研究発表B 平成26年11月16日 福井県立三方青年の家
納屋内高史 「富山城下町遺跡主要部（西町南区）出土の動物遺存体」日本動物考古学会第2回大会ポスター発表 平成26年11月16日 福井県立三方青年の家
藤田富士夫 「吹上遺跡の語るもの」上越市稲荷町内会 平成26年3月8日 稲荷集落開発センター
藤田富士夫 「おまじないの歴史と文化について」滑川市中央公民館・福寿大学 平成26年3月14日 滑川東地区公民館
藤田富士夫 「北陸の飾玉生産と翡翠の遺跡」NPO法人国際縄文学協会 平成26年4月18日 NPO法人国際縄文学協会事務所
藤田富士夫 「江戸の荒唐本 喚起泉達録の世界」平成26年度上市町ふるさと町民学園開講式 平成26年4月23日 上市町保健福祉総合センター
藤田富士夫 「縄文文化とアイヌ文化」富山市北代縄文広場オープン15周年記念フェスティバル 北代縄文サミット 平成26年7月26日 富山市立長岡小学校
藤田富士夫 「古代の神奈備山を探る視点」日本海文化悠学会 平成26年10月24日 豊栄稲荷神社研修室
藤田富士夫 「ヒスイの玉生産」朝日町町民講座 平成26年11月4日 中央公民館カルチャーセンターみやざき
藤田富士夫 「三日町大塚古墳をめぐる」飛騨考古学会・国府史学会 平成26年11月30日 こくふ交流センター研修室
藤田富士夫 「富山県における四隅突出墳の出現と展開」むきばんだ弥生塾 平成26年12月6日 米子市・木の学校多目的ホール
古川知明 「富山城・城下町研究の成果と課題」越中史壇会特別研究発表会 平成26年6月15日 富山市民プラザ
三辻利一・古川知明・小黒智久 「開ヶ丘遺跡群出土土師器の蛍光X線分析」日本情報考古学会第32回大会 平成26年3月29日 帝塚山大学東生駒キャンパス
古川知明 「富山城跡の発掘成果」江戸富山藩邸の調査・研究報告会（東京大学埋蔵文化財調査室主催） 平成27年1月17日 東京大学駒場Ⅱキャンパス

Ⅷ 研修等参加

- 1 平成 26 年度全史協北信越地区協議会研修会 古川所長・中本主査学芸員・小林主査学芸員 砺波市 平成 26 年 7 月 10 日
- 2 平成 26 年度埋蔵文化財担当者専門研修「遺跡情報記録調査過程」 野垣主査学芸員 独立行政法人 国立文化財機構 奈良文化財研究所 平成 26 年 12 月 16 日～12 月 19 日
- 3 平成 26 年埋蔵文化財発掘調査専門職員等研修会 近藤専門学芸員・中本主査学芸員・小松主査学芸員・鹿島主査学芸員・小黑主査学芸員・坂田囃託学芸員・宮田囃託学芸員 富山県埋蔵文化財センター 平成 27 年 2 月 12 日

Ⅸ 寄贈

- 1 久保創氏寄贈品 考古資料 1 点 (平成 26 年 6 月 25 日受入)
富山市月岡町在住の久保創氏より、富山市大山上野地内に所在する田んぼから採集された石鏃 1 点の寄贈を受けました。
採集地は中滝山遺跡 (市№822 旧石器・縄文前～中期・平安時代) にあり、大きさは長さ 2.6 cm、幅 2 cm、厚さ 4 mm、重さは約 2 g です。形状や作りから縄文時代後～晩期のもとみられます。(小林高範)



X 表彰等

- ①平成 26 年 6 月 4 日 小林高範主査学芸員文化庁長官感謝状 (東日本大震災復興支援)
平成 25 年 4 月から 10 月、本センター小林高範主査学芸員を東日本大震災復興支援のため、岩手県山田町に派遣しました。このたび、本人及び富山市の貢献に対して、文化庁長官から感謝状が授与されました。
- ②平成 26 年 9 月 28 日 小黒智久・酒井英男ほか
『情報考古学』Vol.19 No.1・2 (2013) 掲載の「竪穴住居上屋土壌の火災による落下状況を残留磁化から探る研究」が平成 26 年度日本情報考古学会論文賞を受賞しました。

XI 組織・事業費

1 組織

所長 1	専門学芸員 1	主事 1
	(兼務 民俗民芸村 壺牛人記念美術館)	主査学芸員 9 (うち兼務 大山歴史民俗資料館 1、 民俗民芸村考古資料館 1)
		囃託学芸員 5
		囃託 1 (安田城跡資料館)

2 事業費

総経費	198,900 千円
① 埋蔵文化財調査事業費	64,328 千円
(内訳) 埋蔵文化財調査費	47,709 千円
普及事業費	154 千円
施設管理事務費	16,465 千円
② 文化財保護事業費	44,964 千円
(内訳) 文化財保護事業費	15,634 千円
施設老朽化対策費	8,268 千円
史跡公有化事業費	21,062 千円
③ 一般管理事務費	89,608 千円

はじめに

小竹貝塚は富山市呉羽町に所在する、縄文時代前期後半を中心とする集落遺跡である。遺跡の存在は、昭和 20 年代から知られており、これまでに富山県教育委員会や富山市教育委員会によって、4 回の本調査を含む複数回の調査が行われた。特に公益財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所（以下財団）により行われた 2010 年度の発掘調査では、地表下約 2m から厚さ 2m に達する貝塚が検出されたほか、91 体上る埋葬人骨が発見された（町田他 2014 等）。

筆者は 2008 年度に富山市教育委員会が行った小竹貝塚の調査時に出土した動物遺存体のうち、魚類遺存体の報告を行った（納屋内 2013）。

本稿は、2008 年度調査出土の魚類遺存体の分析結果とこれまでに報告されている魚類遺存体の分析結果を概観すると共に、魚類遺存体から本遺跡について現状で考えられることを述べるものである。

1 2008 年度調査と出土した魚類遺存体について

まずここでは 2008 年度調査成果と、出土した魚類の概要を述べる。富山市教育委員会では、2008 年度から新鍛冶川改良工事に伴う発掘調査を行っている。

2008 年度調査地点は、図 1 の平成 20 年度調査区の位置であり、1993 年の報告資料（山内他 1993、山崎 1993）が採取された場所とほぼ同一である。調査成果については場内報告（場内 2009）に詳しい。

それによれば、調査区北側で貝塚が検出されたほか、南側では土坑や集石遺構など居住域に伴う遺構が検出された。また貝塚縁辺部からは埋葬人骨が 2 体発見されている。検出された貝塚の規模は、新鍛冶川右岸で南北 15m、左岸で南北 29m、最大厚 1.5m に及ぶ。調査時には、この貝塚及びその下層の黒褐色粘質土中から、大量の動物遺存体が土器・石器と共に出土した。これらの遺構や遺物の時期は、河川内部の調査であったことや時間的な制約の問題もあり、現時点で土器を除き詳細な時期の分りかねるものが大半を占めるが、共存した土器の様相等から概ね縄文時代前期と考えられる。調査の際には、通常の発掘調査と同様、目視による遺物の取り上げが行われたほか、検出された貝塚及びその下層の土壌のほとんどに対して 5mm、3mm、1mm 目のフルイを用いた土壌水洗選別が行われ、動植物遺存体や土器、石器などの人工遺物の採取が行われた。

この調査の際に出土した動物遺存体のうち、魚類遺存体は総点数で 9680 点に上り、このうち同定できたものは 1866 点にのぼる。同定できなかったもののうち、638 点は現在検討中であり、7176 点は破片化が著しく、同定不可能なものであった。また、検討中のものの中にはコイ科の鰓蓋骨の破片と考えられるもの 232 点が含まれる。同定できたものの組成は、目視により取り上げられた資料ではクロダイ属が最も多く、311 点、同定された資料の約 40%



図1 これまでの調査位置と範囲想定図

を占め、板鯉類が 119 点とこれに続く。また、水洗選別資料ではサケ科が最も多く 432 点、同定された資料の 35%を占めるほか、コイ科が 259 点でこれに続き、これら 2 種類で全体の 50%以上を占める。

2 2008 年度調査出土資料以外の調査で出土した魚類遺存体の概要

次に 2008 年度調査を除くこれまでの調査で出土した魚類遺存体のうち、報告がなされているものについてその概要を述べる。

表 これまでの調査で出土した魚類の量比

種名	市教委		県財団A地区(居住域)		
	2008年度	1991年度	前期中・後葉	前期後葉	前期末葉
板鯉類	176 11.9%	46 3.5%	100 14.1%	53 7.7%	4 66.7%
ニシン科	62 4.2%	244 18.8%	53 7.5%	69 10.0%	
カタクチイワシ	24 1.8%	444 34.1%	14 2.0%	42 6.1%	
コイ科	296 20.0%	240 18.4%	162 22.9%	275 39.9%	1 16.7%
アユ	51 3.5%	26 2.0%	37 5.2%	55 8.0%	
サケ属	77 5.2%	6 0.5%	46 6.5%	34 4.9%	
トゲウオ科	11 0.7%			1 0.1%	
ボラ科	5 0.3%				
コチ科	12 0.8%	2 0.2%	5 0.7%	2 0.3%	
スズキ属	92 6.2%	8 0.6%	40 5.7%	21 3.0%	
アジ類	11 0.7%	50 3.8%	13 1.8%	1 0.1%	
コショウダイ属	1 0.1%		1 0.1%		
クロダイ属	391 26.5%	10 0.8%	108 15.3%	65 9.4%	
マダイ亜科	60 4.1%	59 4.5%	42 5.9%	14 2.0%	
タイ科	125 8.5%	110 8.5%	49 6.9%	41 6.0%	1 16.7%
イシダイ属	1 0.1%				
サバ属	41 2.8%	25 1.9%	4 0.6%	1 0.1%	
カツオ		4 0.3%	1 0.1%	2 0.3%	
マグロ属	4 0.3%				
ヒラメ					
カワハギ科	6 0.4%	10 0.8%			
フグ科	20 1.4%	16 1.2%	31 4.4%	13 1.9%	
その他	12 0.8%	1 0.1%	1 0.1%		
総計	1478 100.0%	1301 100.0%	707 100.0%	689 100.0%	6 100.0%

種名	県財団B・C地区(貝塚)		
	前期中・後葉	前期後葉	前期末葉
板鯉類	100 2.3%	239 4.0%	235 19.7%
ニシン科	256 5.9%	326 5.5%	25 2.1%
カタクチイワシ	72 1.7%	88 1.5%	7 0.6%
コイ科	776 17.9%	1269 21.3%	306 25.7%
アユ	41 0.9%	121 2.0%	34 2.9%
サケ属	35 0.8%	227 3.8%	26 2.2%
トゲウオ科	1 0.0%	21 0.4%	1 0.1%
ボラ科	9 0.2%	14 0.2%	6 0.5%
コチ科	16 0.4%	41 0.7%	3 0.3%
スズキ属	1189 27.5%	1063 17.9%	118 9.9%
アジ類	52 1.2%	85 1.4%	22 1.8%
コショウダイ属	7 0.2%	8 0.1%	1 0.1%
クロダイ属	689 15.9%	1179 19.8%	251 21.1%
マダイ亜科	429 9.9%	388 6.5%	46 3.9%
タイ科	267 6.2%	386 6.5%	65 5.5%
イシダイ属	8 0.2%	11 0.2%	
サバ属	151 3.5%	207 3.5%	13 1.1%
カツオ	20 0.5%	32 0.5%	8 0.7%
マグロ属	8 0.2%	8 0.1%	4 0.3%
ヒラメ	17 0.4%	17 0.3%	4 0.3%
カワハギ科	9 0.2%	9 0.2%	1 0.1%
フグ科	165 3.8%	195 3.3%	11 0.9%
その他	13 0.3%	17 0.3%	4 0.3%
総計	4330 100.0%	5951 100.0%	1191 100.0%

※計数基準統一のため、サケ科、タイ科遊離歯を除く。

※B・C 地区は時期の確実なもののみ集計

(1) 1991 年度調査出土資料

1991 年度に行われた新鍛冶川改修工事の際に排出された排土を、部分的に水洗選別することにより得られた資料である。採取された層位や水洗選別を行った排土の量は不明であるが、2008 年度調査地点付近から採取された資料である。水洗選別に用いたフルイの目合は不明であるが、採取資料の大きさから見て、少なくとも 1mm 目以下のフルイが用いられたものと考えられる。

資料の分析は山崎京美氏によって行われ、1993 年に報告されている（山崎 1993）。同定された魚類は 1404 点に上り、ニシン科やカタクチイワシなどのイワシ類が計 688 点と、同定された資料の約 50% を占める。これ以外のものは、コイ科やサケ科などが多く出土している（表 1）。

(2) 県財団調査出土資料

北陸新幹線建設に伴う、県財団による 2009・2010 年度調査の際に出土した資料である。調査は 2008 年度調査地点の南側、図 1 の県財団調査 A～C 地区の位置で行われた。その結果、2009 年度調査区（A 地区）では、前期中葉から末葉の居住域が検出されたほか、2010 年度調査区（B・C 地区）では前期中葉から末葉の厚さ 2m に及ぶ貝塚が検出された。検出された遺構の時期は居住域、貝塚ともに大きく分けて前期中葉から後葉、前期後葉、前期末葉に分かれ、特に前期後葉の貝層からは、計 91 体の埋葬人骨が出土した。

資料には大きく分けて、調査時に目視により取り上げられたものと、排土を水洗選別することにより得られたものがある。水洗選別は、すべての貝層土壌に対して 5mm メッシュのフルイを用いて行われたほか、2010 年度調査区全体に 2×2m のグリッドをかけ、グリッドごとに土壌 1 袋分の土壌を採取したものに対しては、2.5mm、1mm メッシュのフルイも用いて行われた。分析は、奈良文化財研究所環境考古学研究室により行われ、2014 年に報告された（山崎他 2014）。調査時に取り上げられたもの、及び 5mm メッシュ採取資料については、全資料に対して同定が行われ、2.5mm、1mm メッシュ採取資料については、水洗選別されたもののうち、53 グリッドを抽出して同定が行われた。

同定された資料は 17624 点に上り、コイ科が 3157 点で最も多く、スズキ属が 3035 点、クロダイ属が 2893 点と続き、この 3 種類で全体のおよそ 50% を占める。地区、時期ごとに見てみると、A 地区ではコイ科、クロダイ属が特に目立ち、時期が下るにつれてコイ科とアユの比率が高くなってゆく。B・C 地区では、コイ科、クロダイ属に加えてスズキ属が特に目立ち、時期が下るにつれてスズキ属、マダイ亜科の比率が減少し、板鰓類、コイ科、クロダイ属の比率が増える傾向がある（表 1）。

3 考察

以上を踏まえ、小竹貝塚出土の魚類遺存体から現状で考えられることを述べてゆきたい。

まず、出土した魚類遺存体の組成から、本遺跡で行われた漁労活動について考えてみたい。これまでの分析で出土している魚種に注目してみると、コイ科やクロダイ属、スズキ属といった淡水や汽水を好む種類が、どの分析結果でも多く出土している。遺跡の形成時期である縄文時代前期当時には、遺跡周辺には潟湖が広がっていたことが先行研究で明らかにされており（藤井 1992）、これまでの分析で指摘されているように、本遺跡における漁労活動は、大局的には遺跡周辺に広がる潟湖や周辺の河川からの獲得を主とするものであったと考えられる。

資料の層位的な分析が行われている県財団調査地点の分析結果を詳しく見てみると、組成の主体を占める種類は大きく変化しないものの、A 地区、B・C 地区共に時期が下るにつれてコイ科やアユ、クロダイ属など汽水域や淡水域を好む種類の比率が高くなってゆく。本地点の分析報告では、本遺跡の生業活動は全時期を通じて変化しなかったと述べられているが（山崎他 2014）、漁撈活動については、よりの確に表現するならば、全体として大きく変わらないものの、本地点については時期が下るにつれて汽水・淡水域の漁獲域としての比重がより高まっていったと言えるだろう。

また、本地点の珪藻分析の結果によれば、C 地区では縄文時代前期中葉から後葉にかけて、沼沢湿地の状態から海水泥質干潟の状態へ変化していったことが示されており、海水準の上昇が指摘されている。1 地点のみの分析結果であることや後述する地点差の問題を考慮する必要があるが、このことと本地点における魚類の出土傾向を合わせて考えるならば、時期が下るにつれてより淡水の影響の強い場所へ漁場が移動していた可能性も十分に考えられる。

次に各調査地点の分析結果の比較を通して、本遺跡の貝塚部分の堆積状況について考えたい。筆者は以前、1991年度調査出土資料と2008年度調査出土資料に含まれる魚類遺存体の比較を通して、1991年度調査出土資料が貝塚の中の部分的な堆積を反映している可能性を指摘した(納屋内2013)。今回、県財団調査出土資料の分析結果を含め改めて比較してみると、各分析資料は1991年度調査出土資料を除き、板鯉類、コイ科、クロダイ属、スズキ属が組成の主体を占めるという点で共通するが、1991年度調査出土資料はニシン科、カタクチイワシが合わせて688点と組成の半数近くを占め、他の資料とは様相が大きく異なっている。1991年度調査出土資料と2008年度調査出土資料がほぼ同じ地点から採取されたものであることを考慮するならば、1991年度調査資料は貝塚を構成する貝層の中の更に細かな堆積の様相を反映していると考えられる。

また、2008年度調査資料と県財団調査地点の分析結果を比較してみると、その組成は縄文時代前期中・後葉の居住域や縄文時代前期末葉の貝層の組成に極めて類似する。このことは、2008年度調査で検出された貝塚が、県財団調査地点B・C地区で検出された貝塚とは異なった堆積構造を持っていることを示す。2008年度調査地点検出の貝塚の時期については、現時点では縄文時代前期という以外、判然としていない。県財団調査地点の報告書では前期後葉の可能性が想定されているが(町田他2014)、魚類遺存体の傾向を見る限り、他の時期の可能性も考えてゆく必要があるだろう。

おわりに

小竹貝塚出土の魚類遺存体について、これまでの分析結果を概観した上で、そこから考えられることを述べてきた。

これまでの魚類遺存体の分析結果を比較してみると、本遺跡における漁撈活動は、大局的には遺跡形成期間を通じて周辺の潟湖や河川を主たる漁場としているものの、時期が下るにつれて汽水・淡水域の漁場としての比重が高まっていった可能性が考えられた。また、本遺跡の貝塚部分については、貝塚を構成する貝層内の局所的な堆積や堆積構造の地点差の存在も考えられた。

このように、魚類遺存体の様相一つを取って見ても、本遺跡は水平的にも垂直的にも多様な様相を持った遺跡であることが見て取れる。少なくとも一つの地点や層の様相を遺跡全体に普遍化して考えることは現状では慎むべきであろう。そのため、今後の調査データの蓄積が非常に重要であり、出土状況が不明確な資料についても、相伴した土器の分析や地層の堆積状況と壁面採取資料の年代をベースとした堆積構造の分析などによって資料の時期をできるだけ絞り込んでゆくことが必要と考えられる。

文献

- 金原正子 2014 「7 土壌の分析」『小竹貝塚発掘調査報告 第二分冊 自然科学分析編』公益財団富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 pp.73-97
- 納屋内高史 2013 「小竹貝塚出土の魚類遺存体(予報)」『富山市考古資料館紀要』第32号 富山市考古資料館 pp.1-10
- 藤井昭二 1992 「富山平野」『アーバンクボタ』31 クボタ pp.38-47
- 堀内大介 2009 「明らかとなった貝塚の状況—小竹貝塚—」『富山市の遺跡物語』No.10 富山市教育委員会埋蔵文化財センター pp.4-5
- 町田賢一他 2014 『小竹貝塚発掘調査報告 第一分冊』公益財団富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 680pp.
- 山内賢一・林寺畿州・小林高範・古川知明 1993 「小竹貝塚出土の遺物について」『富山市考古資料館紀要』第12号 富山市考古資料館 pp.1-9
- 山崎京美 1993 「小竹貝塚採集の動物遺存体」『富山市考古資料館紀要』第12号 富山市考古資料館 pp.10-30
- 山崎健他 2014 「18 脊椎動物遺存体」『小竹貝塚発掘調査報告 第二分冊 自然科学分析編』公益財団富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 pp.228-266

研究余話Ⅱ 富山城下町遺跡出土の人形(狽)について

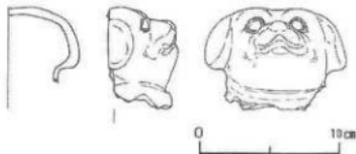
鹿島昌也 小林照子 加藤雄太

(埋蔵文化財センター主査学芸員 東京大学埋蔵文化財調査室 同志社大学生)

はじめに

平成 18 年度に実施した総曲輪通り南地区(総曲輪フェリオ)再開発事業に先立つ発掘調査の C-2 区から人形(狽)が出土していた。報告書(富山市教育委員会ほか 2006)には出土した土坑 SK09 は 18 世紀～近代以降の遺物も含み新しい遺構とされ、出土遺物は殆ど紹介されていなかった。

今回紹介する人形(狽)(以下、富山城下狽と呼称)は、この土坑から出土したもので、首から上部の顔面～前頭部が残存している。鹿島は近年、富山城下町遺跡やその周辺から出土する土人形の産地について調査を始めており、この富山城下狽の産地を調査する中で判明したことを述べる。



富山城下町遺跡出土「狽」実測図

1 調査の経過と研究史

平成 25 年 9 月、東京大学構内遺跡から出土した人形を実見・検討する機会を得た。その中の御殿下記念地点(東京大学埋蔵文化財調査室 1990)から出土した坐狽(報告書第 409 図 2。以下、東大御殿下坐狽と呼称)について、富山城下狽とよく似ていることに気がつき、同 26 年 7 月に東大御殿下坐狽と富山城下狽を比較検討(注 1)した。前者は伏见人形と推測されている(同 1990)。

人形は早くから郷土玩具として注目され(武井 1930)、伏见人形については、考古学的な視点での研究が進められている(木立 1997、2001)。また近年、加賀藩・富山藩・大聖寺藩・水戸藩の大名屋敷が所在した東京大学構内遺跡から出土した 1 千点を越える人形・玩具類についての分類や年代的変遷の研究も行われている(安芸・小林・堀内 2012、小林 2012)。

さらに加藤より伏见人形の産地である京都市法性寺跡で大量の土型や原型が発掘された((財)京都市埋蔵文化財研究所 2011)との情報を得た。同調査において坐狽の土型(報告書図版 28 型 175。以下、伏見坐狽土型と呼称)があることが分かり、平成 26 年 11 月に(公財)京都市埋蔵文化財研究所にて富山城下狽と伏見坐狽土型を比較検討(注 2)した。

2 製品と土型との比較検討結果

(1) 東大御殿下坐狽との比較

富山城下狽は、残存高 8cm、幅 10cm で型起し成型され、内部は中空である。淡黄白色を呈し、表面には雲母粉が観察される。短い鼻梁、垂れた耳、大きく開いた目といった狽の特徴をよく表現している。

一方、東大御殿下坐狽は、高さ 16.5cm、幅 15cm で型起し成型され、内部は中空である。浅黄橙色を呈し、表面には雲母粉が顕著にみられる。

両者を比較すると大きく開いた目や垂れた耳、口など表現方法はほぼ同じであるが、鼻穴が前



左：富山城下町遺跡出土

右：東京大学構内遺跡出土(東京大学埋蔵文化財調査室所蔵)

者は不明瞭なのに対し、後者は2穴が明瞭に表現されている。

しかし、この違いは型起しする際に型の鼻穴部分に粘土がうまく充填されなかった場合、明瞭でなくなる場合があることから、顔面部分のみの比較ではあるが2点は同じあるいは極めて近い原型から起した土型から製作された製品であることが推測される。

(2)伏見坐狝土型との比較

伏見人形の生産工程は原型(雄型)の製作→焼成→土型(雌型)の製作→焼成→生地(型抜き)の乾燥→焼成→胡粉塗り・彩色→完成となる。法性寺跡では、土坑 63 から幕末～明治にかけての陶磁器とともに人形の原型や土型、製品、道具類が多数出土した。あわせて人形を焼成した桶窯と呼ばれる焼成窯も見つかっている(財)京都市埋蔵文化財研究所 2011)。

伏見坐狝土型(型 175)は型高 12cm、型幅 10.5cm を測る中型を呈する土型である。全高が残る東大御殿下坐狝と比較すると一回り小さい製品用の土型と分かる。しかし目や鼻、口の表現方法が良く似ている。法性寺跡出土の土型には、型高 6.8cm、型幅 6.0cm とさらに一回り小さい小型の坐狝(型 179)や型高 20.5cm を測る大型の立狝(型 173)などもある(財)京都市埋蔵文化財研究所 2011)。このことから土型には大型・中型・小型といった様々なサイズがあることが分かる。東大御殿下坐狝や富山城下狝はいずれも大型のサイズに該当する。

3 産地について

産地については、胎土から判断する他に生産地に残る原型や土型、調査で出土した製品資料から確認する方法がある。ここでは、富山城下狝が京都産であるか検討する。胎土について、京都で出土する土人形の土色は淡黄白色を主体とし、富山城下狝も同色を呈する。また先ほど比較検討した伏見坐狝土型に加え、奥村寛純氏による資料集成(奥村 1976)が参考になる。奥村氏の資料集成の中には京都伏見人形老舗の丹嘉收藏の土人形の原型が集成されており、狝の原型が多く確認できる。ここには高さ 39cm～30cm の特大型の原型もあるが、高さ 20cm のものもあり、東大御殿下坐狝や富山城下狝に近いタイプの原型も確認できる。さらに狝の表現が極めて似ていることも指摘できる。よって、富山城下町狝は京都伏見一帯で生産された資料の可能性が極めて高いということが出来る。



法性寺跡(左:型 175、右:型 173)

(公財)京都市埋蔵文化財研究所蔵



左:法性寺跡(型 175)から起こした狝
右:富山城下町遺跡出土狝



『広益国産考』にみる伏見人形の
製作工程(彩色仕上)

真中に彩色された狝が3体みえる

(奥村 1976 より)

4 大型種の出土類例について

富山城下狝は城下町の武家地に掘られた土坑（ゴミ穴）に廃棄された状態で出土した。時期は18世紀以降の遺物が出土している。東大御殿下坐狝は御殿下グラウンド表土除去後の最上層の整地面（IX期）で確認された49号遺構と呼ばれる井戸跡から出土した。時期は、下限を1860年代とし、上限は梅之御殿（注3）に後続する時期と捉えられている。加賀藩江戸上屋敷の御殿空間の一角である。これら狝の類例として、東京都港区「讃岐高松藩・陸奥守山藩下屋敷」から1点出土している。18世紀末～19世紀初頭の高松藩下屋敷時代の455号地下室から見つかっている（注4）。これは、胎土が赤褐色を呈し、江戸在地で製作された。これまで、大型の狝の出土例は非常に少なく町人地からの出土例は今のところ知られていない。



富山城下町出土（総曲輪四丁目・旅籠町地区出土燈籠（残存高16.5cm）、隨身（残存高10cm）、狐、獅子（注7））

5 富山城下狝出土の意義について

伏見人形は、伏見稻荷神社の参詣客を対象に製作し販売された。人形は、参詣客の土産物として各地にもたらされた。

東大構内遺跡では、19世紀に入ると土人形の出土数は爆発的に増加し、江戸在地系の人形の中に京都系の人形と同じ意匠のものが現れる。このことは伏見人形のブランド化が進んだことにより、各地で模倣品が作られていったためではないかと考えられる（小林2012）。

富山城下町狝や東大御殿下坐狝は京都伏見産とみられる製品を直接入手している。小さい狝は、子供のひきつけや鼻づまり防止、安産のまじない用とされ神棚や床間などに祀られていた。富山城下町遺跡出土品には、一番町共同ビル地区で狝抱き人形が1点ある。子供を対象として流通した安価な玩具用であり、子供が健康に育つためのお守りの意味があったのではと推測されている（基峰2014）。その一方で、大型の製品は観賞品としての要素が強く、比較的高価な製品だったと考えられる。

富山城下町遺跡では、総曲輪四丁目・旅籠町マンション地区からも多数の土人形が出土した（富山市教育委員会ほか2010）。その中にも、大型品とみられる製品（写真）で、天神あるいは隨身、燈籠などがあり、天神信仰との関連が推測される。この隨身や燈籠は、胎土などから産地は伏見や江戸ではなく、在地産とみられる（注5）。また、富山城下狝が出土した同地区の土坑からは天神板絵の部分が出土した。富山藩の上級藩士戸田式部屋敷邸宅のゴミ穴から出土した板戸で武家における天神信仰の普及を物語っている。

富山では、弘化3（1846）年以降土天神と呼ばれる土製天神人形が流行し、武家や大商家などの上流階級に好まれた（富山市教育委員会ほか2006）。さらに、嘉永年間（1848～54）には富山藩十代藩主前田利保が名古屋の陶工加藤家の陶器職であった広瀬秀信を富山に呼び、千歳御殿にて千歳焼を製作し、その子安次郎が天神臥牛を焼いて献上したのに始まるとされる富山土人形が作られる。江戸幕末以降、発展して民間信仰や縁起物、子供の玩具として数多く製作された。そのようなことから富山土人形は瀬戸の系統であるとの説がある（注6）。

しかし、その実態は出土品から推察すると単純ではなさそうである。藩主利保は陶磁産業の開発による藩財政の充実に力を注いでおり、土人形の他に越中丸山焼を俣藩窯と位置づけ援助している。越中丸山焼は、文政12（1829）年～明治27年に婦負郡丸山村の甚左衛門が京都で陶法を学び郷里に帰って創業した。越中丸山焼には、京焼や再興九谷の影響を受けた

と見られる製品も多く製作されている。江戸生まれの藩主は、参勤交代で江戸と国元を行き来する中、江戸城下の武家社会で流行する伏見や江戸の土人形を目にしていただろう。その文化を国元の産業振興に導入する際に、既に富山城下の武家の間でも浸透していた京都伏見産人形の影響も見逃すことは出来なかっただろう。

おわりに

近年、富山市中心市街地再開発に伴い、富山城や城下町の発掘調査が急増している。今後、人形出土例の増加が見込まれる。それらを江戸富山藩邸や金沢城・城下町で出土する人形などとの比較検討を行い、武家の流行や天神信仰、民間信仰などに触れながら富山人形の起源にも迫ることが出来ればと考えている。

注

- (1) 東京大学埋蔵文化財調査室の堀内秀樹氏、安芸毬子氏、小林照子氏に実見のご配慮をいただいた。
- (2) (公財)京都市埋蔵文化財研究所の大立目一氏、上村和直氏に実見のご配慮をいただいた。この場に加藤も立会い富山城下町を視察した。この時、能芝勉氏からもご意見をいただいた。
- (3) 享和2(1802)年加賀藩12代藩主前田斉広の時に10代藩主重教の正室寿光院のために建てられた居館。廃絶時期は不明であるが、文政8(1825)年をやや遡る時期とみられている。
- (4) 小林照子氏による。
- (5) これまでに富山城下町遺跡から出土した土人形を安芸毬子氏や小林照子氏に実見していただいたところ、赤橙色の江戸産は1点も見られなかった。一方で淡黄白色～黄橙色を呈する製品が多く、淡黄白色のものは京都系、それ以外は在地系ではないかとの指摘があった。
- (6) 高島賢一は、三村与三三氏の「広瀬家聞き書」記録からの要約として「名古屋の田圃屋亀助と云う有名な人形作りがいた。何らかの事情で亀助が広瀬家にひきとられ広瀬家に人形製作技術を伝えた」と云うと広瀬家に伝わる話を紹介している(高島1998)。「田圃屋亀助」は実在した人物か不明である。
- (7) 写真の狐・獅子は報告書(富山市教育委員会ほか2010)掲載、燈籠・隨身は未掲載品。

文献

- 安芸毬子 1990 「土人形について」『東京大学本郷構内の遺跡 山上会館・御殿下記念館地点』第3分冊 考察編 東京大学埋蔵文化財調査室
- 安芸毬子・小林照子・堀内秀樹 2012 「東京大学構内遺跡出土人形・玩具の分類」『東京大学構内遺跡調査研究年報8 2009・2010年度』東京大学埋蔵文化財調査室
- 奥村寛純 1976 『伏見人形の原型』伏見社・丹波
- 木立雅明 1997 「伏見人形の窯をめぐって—近世京都の窯業についての予察」『立命館大学考古学論集』I 立命館大学考古学論集刊行会
- 木立雅明 2001 「伏見人形の成立と発展をめぐる二つの背景—近世窯業の発展と精神文化」『立命館大学考古学論集』II 立命館大学考古学論集刊行会
- 基峰修 2014 「青割水路出土の土人形」『富山城下町遺跡主要部発掘調査報告書』富山市教育委員会
- 小林照子 2012 「東京大学構内遺跡出土人形・玩具の年代的推移について」『東京大学構内遺跡調査研究年報8 2009・2010年度』東京大学埋蔵文化財調査室
- 高島賢一 1998 「富山の土偶様(富山人形)」『郷玩文化』No.128
- 定塚武敏 1974 『越中の焼きもの』富山文庫2 巧玄出版
- 武井武雄 1930 『日本郷土玩具』東の部・西の部 地平社書房
- (財)京都市埋蔵文化財研究所 2011 『法性寺跡』
- 東京大学埋蔵文化財調査室 1990 『山上会館・御殿下記念館地点』第二分冊
- 富山市教育委員会 総曲輪通り南地区市街地再開発組合 2006 『富山城跡発掘調査報告書』
- 富山市教育委員会 総曲輪四丁目・旅籠町地区開発協議会 2010 『富山城跡発掘調査報告書』

はじめに

縄文時代の身体装飾品の1つに土製耳飾りがある。後～晩期には関東・中部地方を中心に大量出土がみられ、東日本を中心とした資料の蓄積によって日本列島での大まかな流れが明らかにされている。一方で北陸地方以西の様相は不明瞭な部分が多い。富山県内では近年の調査によって資料数が増加しており、本稿では実態把握のために現在までの県内事例を集成し、その様相を探るものである。

1 研究史

(1) 全国における研究

土製耳飾りに関する研究の先駆けは坪井正五郎で、土偶の耳部表現から初めて耳飾りの機能に言及し(坪井 1906a)、複数資料により栓形・棒形・筒形・滑車形・輪切形などの分類を行った(坪井 1906b・1909)。坪井による「滑車形耳飾り」の呼称は耳飾りの用語として定着を見たが、長谷部言人は結縛崇拜の観点から初期段階には耳孔封鎖の意味を持つとして「耳栓」の新称を提唱し、甲野勇は埼玉県真福寺貝塚資料をすべて耳栓と捉えて滑車状耳栓・透彫付耳栓などの分類を行った(甲野 1940)。吉田泰幸が指摘するように、「滑車形耳飾り」と「耳栓」の2つの名称は本来的には同一形態の遺物に対して観点の違いから付されたものであったが、後に時期差として置き換えられ、中期の鼓状のものを「耳栓」、後～晩期に大型化して装飾が進んだものを「滑車形耳飾り」と呼ぶことが慣例的となっている(吉田 2008)。なお、吉田は耳飾り全般の分類体系を整理して球状耳飾、垂飾形耳飾と合わせて「栓状耳飾」を提唱し、土製のものを「土製栓状耳飾」と表現した。(吉田 2003・2008)。

全国的な動向や発展過程の研究には、樋口清之による基礎研究がある。形態をA～Cの3類に分けて変遷と系統性について言及した(樋口 1941)。その後関東・中部地方の資料増加があり、百瀬長秀は施文と形態の関係に着目して、中期(誕生)→後期～晩期前葉(発達)→晩期中葉(消滅)の3段階の変遷を想定した(百瀬 1979)。設楽博己は形態と文様を組み合わせた類型分類と大きさの分析により、後～晩期における変遷過程をI～III期にまとめた

(設楽 1995)。画期設定に若干のずれがあるものの、百瀬と設楽の3期区分は現在まで踏襲されている。近年では吉田泰幸の中～晩期の包括的な研究(吉田 2003・2008)、吉岡卓真による後～晩期の詳細な動態把握がある(吉岡 2014)。

土製耳飾りの起源に関する問題に目を向けると、高山純は中期における「耳栓」の分類を行い、土製球状耳飾りに祖形を求めた(高山 1965・2010)。これに対し、藤田富士夫は体部に窪みをもつ滑石製管玉状石製品からの派生を想定し、土製球状耳飾りからの系譜を否定した(藤田 1971・1975)。



図1 遺跡位置図(番号は表1と対応)

近年では吉田泰幸が土製袂状耳飾りについて形態を4類に分類し、高山モデルに準拠して石製袂状耳飾（早期末～中期初）→土製袂状耳飾（前期後半～）→土製栓状耳飾（中期初～）という3段階の変遷を想定した（吉田2006）。

大きさについて渡辺誠は、後～晩期資料にみられる直径の多様性から、成人式から死に至るまでに耳たぶの伸張と耳飾りの付け替えがなされたとした（渡辺1973）。その後、大きさの計測分布から付け替え段階を読み取る試みが行われた。大塚和義は大きさを4段階に設定し、民族例から10歳前後で最初の耳たぶへの穿孔がなされるとし、通過儀礼に伴う身体装飾と理解した（大塚1988）。金成南海子・宮尾亨は後～晩期の1,000点弱の資料を1cm単位で計測し、寸法の多い2つのピークを成年式と婚礼儀式に相当するとした（金成ほか1996）。

(2) 県内研究

本県においては、昭和47年の『富山県史 考古編』及び『郷土のあけぼの—富山県考古展』の中で中期2遺跡2点、後～晩期4遺跡11点の報告があり、極めて少ない状況であった。

昭和40年代末～50年代に徐々に資料が蓄積され、昭和60年代以降、資料数は増加した。

県内研究の既往のものに、小島俊彰による滑川市本江遺跡資料の分析がある。刺突を伴った弧線文から後期後半～末の時期比定を行い、径5～6cm台のものが多いことを指摘した（小島1979）。また、朝日町境A遺跡調査報告書では孔や文様の有無、長さや厚さを組み合わせた5分類（富山県教育委員会1992）、魚津市早月上野遺跡調査報告書では白形と環状に大別した2分類（公益財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所2012）があるが、詳細分までには及んでいない。土製耳飾り研究の中で本県の情報は抜け落ちている。

2 県内の土製耳飾りの分布状況について

これまでに確認したものは33遺跡132点がある（図1、表1）。これには前期の土製袂状耳飾り（小竹貝塚、極楽寺遺跡）も含む。

遺跡の分布状況をみると県内全域に及んでおり、前期2遺跡、中期17遺跡（前葉5、中葉

No.	所在地	遺跡名	時期	出土点数	表裏面番号	
1	朝日町	境A遺跡	中、後、晩期	27（中3、後～晩24）	44, 48, 49, 52, 53, 60～62, 64, 68～74, 80, 81, 83, 84, 92, 92, 97, 98	
2	〃	柳田遺跡	後～晩期	2		
3	黒部市（田宇奈月町）	堂本野遺跡	中期中葉	2		
4	〃	風野遺跡	後～晩期	1		
5	〃	浦山寺森遺跡	中期中葉～後葉	2	26, 28	
6	〃	田家遺跡	後～晩期	1		
7	魚津市	天神山遺跡	中期中葉	1	27	
8	〃	極楽寺遺跡	〃	〃	〃	
9	〃	石垣遺跡	後～晩期	7か	46, 47	
10	〃	早月上野遺跡	〃	9	44, 51, 57, 63, 65, 75, 76, 94, 95	
11	滑川市	本江遺跡	後期後半～晩期初	11		
12	上山市	極楽寺遺跡	前期末～中期初	3（土製袂状耳飾り）	9～11	
13	立山町	金嶺寺遺跡	後～晩期	3か		
14	富山市	田原崎野田・平根遺跡	後期～晩期前半	10	50, 54, 59, 66, 67, 78, 79, 82, 85, 86	
15	〃	東風土野遺跡	中期中葉	1		
16	〃	布尻遺跡	晩期前葉	1	96	
17	〃	北沢遺跡	中期前葉	3	29, 33, 34, 36	
18	〃	小竹貝塚	前期後葉～末	4+4（土製袂状耳飾り）	1～8	
19	〃	古沢遺跡	中期中葉	1		
20	〃	杉谷11遺跡	中期前葉	1		
21	〃	杉谷67遺跡	晩期前	1	77	
22	〃	関ヶ岳合葬遺跡	中期前～中葉	3（前葉2、中葉1）	19, 2	
23	〃	（田端中野）	中期前葉	4	14～17, 21	
24	〃	（田八尾町）	長山遺跡	1		
25	〃	（〃）	磯尾日遺跡	1	16	
26	射水市（田小浜町）	針原西遺跡	中期後葉	1	35	
27	〃	（田大門町）	布尻東遺跡	前期末～晩期初	1	68
28	〃	（〃）	市田遺跡	中期後葉	1	39
29	小糸郡市	飯町遺跡	後期末	14	37～43, 55, 56, 87～91	
30	南砺市	飯坂寺遺跡	中期前葉	3	12, 13, 18	
31	〃	（田庄川町）	松原遺跡	4	22～25	
32	南砺市（田井口村）	井口遺跡	後～晩期	1		
33	〃	（田平村）	中期後葉～後期初	2	31, 32	

表1 県内の耳飾り出土遺跡一覧

8、後葉 4)、後～晩期 14 遺跡である。資料数では前期 11 点、中期 35 点、後～晩期 86 点ある。遺跡数では中期段階が最も多いが、1 遺跡からは単体もしくは数個程度の出土である。後～晩期では 10 個以上の類例があり、土製耳飾り装着の慣習が定着化したと捉えられる。

3 県内の土製耳飾りの様相について

耳飾りの形態について設楽分類 (設楽 1995) を参考にして 1 種 (棒状 42.42)、2 種 (柱状 1~4.38~41)、3 種 (臼状 12.14~20.22~26.29~31.44.45~54.60~62)、4 種 (環状 27.32~34.37.63~67.69~98)、5 種 (片方が大きく段をもつ凸状 13.58.59)、6 種 (片方が緩やかに広がるラッパ状 21.28.35.36.55~57) の 6 種に分類した。1~4 種は直径と長さの比率により分けたもので、1 種は 1:2 以上、2 種は 1:1~2 未満、3 種は 1:0.5~1 未満、4 種は 1:0.5 未満である。なお、1 種以外は孔を開けたものと無いものの両方がみられる。

前期では、小竹貝塚から 2 種がみられる。また、小竹貝塚と極楽寺遺跡では土製杖状耳飾りがある。吉田分類 (吉田 2006) によれば、小竹貝塚 5~8 は C 類 (側面が丸味を帯びる)、極楽寺遺跡 9、10 は D 類 (側面が直線的)、11 は B 類 (側面に突起をもつ) に相当する。

中期では、前葉に 3 種、5 種、6 種がみられる。3 種は時期が新しくなるにつれて大型化し、器壁が薄くなる。なお、開ヶ丘孤谷Ⅲ遺跡では 19、20 が堅穴住居から出土しており、1 対のものと思われる。6 種は鏡坂Ⅰ遺跡 21 のほか、杉谷Ⅱ遺跡、古沢遺跡でも類例がある。後続の浦山寺蔵遺跡 28、北代遺跡 36 をみると新しいほど裾部の広がり大きい。4 種は中葉から天神山遺跡 27 があり、後葉の東中江遺跡 32、北代遺跡 33、34~続く。

後～晩期では、1~6 種がすべて出揃う。新形態として 1 種があり、桜町遺跡 42、43 は耳たぶに留めるために片側を瘤状としている。2 種は中期に一度途絶えたが、再び用いられ

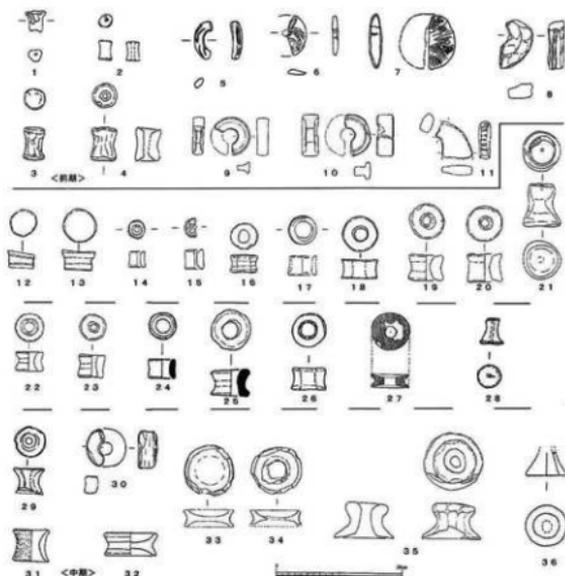


図2 富山県内出土の耳飾り実測図①(前～中期)

る。3 種は中期から一転して小型品が主体となる。4 種は直径の大きなものへ移り変わり、細かな文様が描かれる。ブリッジの施された浜黒崎野田・平榎遺跡 66 も出現する。5 種は小型の浜黒崎野田・平榎遺跡 59、突起の付く布目沢東遺跡 58 がある。6 種は桜町遺跡 55、56 に引き継がれ、内外面に赤色漆が塗られている。文様等の装飾をみると、陽刻した雲形文を描いたもの

(62.63)、十字状のもの(61.64.65)がある。ほかに施文として楕円形工字文(76)、三叉文(87~94.96)、玉抱き三叉文(95.98)がある。

以上から県内の様相についてまとめてみる。

第一に、前期後葉段階に柱状タイプの2種がみられる。これまで土製耳飾りの初段階は関東地方の類例から中期初頭の五領ケ台式期とされており(金成・宮尾 1996 他)、それを遡るものである。また小竹貝塚では石製缺状耳飾り、土製缺状耳飾りが出土しており、同時期に3種の異なる耳飾りが併用されていたとみられる。吉田氏の想定した耳飾りの変遷(吉田 2006)は整合せず、系譜や耳飾り使用の在り方についての再検討が必要であろう。

第二に、臼状タイプ3種に変遷がみられる。中期に大型化し、後~晩期では小型化に向かう。中期の出土数が少ないことと合わせて、これに対する1つの考えを提示しておきたい。中期段階では土製耳飾りを装着できる人が限定され、次第に大型化の傾向に向かう。後~晩

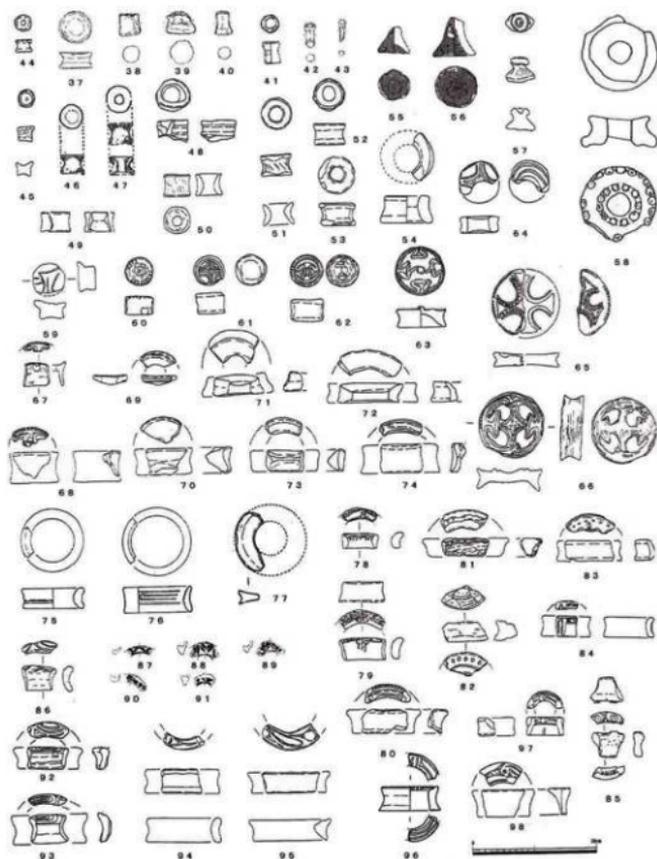


図3 富山県内出土の耳飾り実測図②(後~晩期)

期には通過儀礼の浸透と共に土製耳飾りの形態にバラエティが生まれ、最も簡素な3種は耳飾りを身に付ける初期に使用され、次の段階で大きなもの、装飾性のあるものへと付け替えられたのではないかと想定される。

第三に、ラップ状タイプ6種の変遷がみられる。初期の中期前葉には孔の無い中実だが、中葉に孔があけられ、後葉から後期にかけて裾が大きく広がる。また広い側の内部を抜き取っており、軽量化をはかったものとみられる。系統として前期2種からの変容ではないかと想定される。

第四に、後期後葉に棒状タイプ1種が新出する。先行研究の盛んな関東・中部地方の資料を調べたが、該当する類例は見当たらなかった。土製耳飾りの新形式とみるべきか、あるいは桜町遺跡だけの特殊品とみるべきか。今後の資料増加を踏まえて検討していきたい。

4 今後の課題

県内における土製耳飾りの様相を探ったが、大きさや重量などの属性や文様構成の詳細分析が必要である。また出土点数の少なさが気に掛かる。隣県の新潟県をみると、中期には中越地方を中心に10～50点以上も出土する遺跡がみられる(新潟県立歴史博物館2011)。晩期には上越市(旧中郷村)龍峰遺跡で1,000点以上があり(中郷村教育委員会2000)、県内とは様相が大きく異なる。土製耳飾りの盛行について地域性があると想定され、今後検討していく必要がある。

文献

- 大塚和義 1988 「縄文人の観念と儀礼的世界」『古代史復元2 縄文人の生活と文化』講談社
- 金成南海子・宮尾享 1996 「土製耳飾りの直径」『国学院大学考古学資料館紀要』第12輯 国学院大学考古学資料館
- 甲野勇 1940 「埼玉県真福寺貝塚発見の耳栓」『人類学雑誌』第55号第10号 日本人類学会
- 小島俊彰 1979 「第3章 遺跡・遺物解説 本江遺跡」『滑川市史 考古資料編』滑川市
- 設楽博己 1983 「土製耳飾」『縄文文化の研究9 縄文人の精神文化』雄山閣
- 高山純 1965 「縄文時代に於ける耳栓の起源に関する一考察」『人類学雑誌』第73巻4号 日本人類学会
- 高山純 2010 「ものが語る歴史19 民族考古学と縄文の耳飾り」同成社
- 坪井正五郎 1906a 「日本石器時代人民の耳飾り」『東京人類学会雑誌』第21巻第241号 東京人類学会
- 坪井正五郎 1906b 「諸人種耳飾り分類上日本石器時代人民所有品の位置」『東京人類学会雑誌』第21巻第242号 東京人類学会
- 坪井正五郎 1909 「土製滑車形耳飾り」『東京人類学会雑誌』第24巻第274号 東京人類学会
- 富山県 1972 『富山県史 考古編』
- 富山県教育委員会 1992 『北陸自動車道遺跡調査報告-朝日町7-境A遺跡総括編』
- 富山県古美術展実行委員会 1972 『郷土のあけぼの-富山県考古展-』
- 公益財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 2012 『早上月野遺跡発掘調査報告-北陸幹線建設に伴う埋蔵文化財発掘報告V-(第一分冊)』
- 中郷村教育委員会 2000 『龍峰遺跡発掘調査報告書II 遺物編』
- 新潟県立歴史博物館 2011 『平成23年度秋季企画展 いがたの土偶 発掘された新潟の歴史2011』展示図録
- 樋口清之 1941 「滑車形耳飾考」『考古学評論』第4号
- 藤田富士夫 1971 「耳栓の起源について-飾玉の在り方と関連して-」『信濃』第23巻4号 信濃史学会
- 藤田富士夫 1975 「珠状耳飾りの素材の在り方について」『信濃』第27巻9号 信濃史学会
- 百瀬長秀 1979 「珠状耳飾に関する諸問題-その最盛期の様相を中心に-」『信濃』第31巻4号 信濃史学会
- 吉岡卓真 2014 「土製耳飾りのサイズと装着」『季刊考古学・別冊21 縄文人の資源利用と社会』雄山閣
- 吉田泰幸 2003 「縄文時代における土製栓状耳飾の研究」『名古屋大学博物館報告』№19 名古屋大学博物館
- 吉田泰幸 2006 「珠状耳飾の装着方法」『日本考古学』第22号 有限責任中間法人日本考古学協会
- 吉田泰幸 2008 「土製耳飾の装着原理」『縄文時代の考古学10人と社会 人事情報と社会組織』同成社
- 渡辺誠 1973 「装身具の変遷」『古代史発掘2 縄文土器と貝塚』講談社

はじめに

近世富山町石工は、富山藩期城下町内に工房を有する町石工である。富山町石工の刻銘のある石造物を調査した結果、これまでに9人を確認した。その後の調査において、新たに「伝助」の石工名を確認した。本稿では、石工伝助が製作した石造物について検討を行い、伝助の石造物製作の実態について明らかにすることを目的とする。

1 研究史

富山町石工による石造物は、砺波市芹谷山千光寺の天明6年(1786)造立宝篋印塔に「越中富山住人 大石工 佐伯伝右衛門」の石工名が報告された〔尾田1995〕。

筆者は富山町石工の製作石造物の集成を行い、8人の石工名を確認した〔古川2012a、2013、2014、富山市埋文センター編2014〕。佐伯伝右衛門は勝行と吉忠の2人がおり、勝行が富山町石工で最も古い。伝右衛門は、祥雲文・波濤文等の浮彫文様を採用して富山県東部の近世石造物の伝統的意匠の礎を築き、また初期塔には基礎の四脚化、龍文の浮彫文様の支え石、唐獅子牡丹の浮彫文様など独特の意匠を採用し、技量の高い石工であったと評価できる。

2 伝助製作石造物の概要

伝助が製作した石造物は、刻銘品2件がある(表1)。

(1)滑川市坪川一字一石塔群(市史跡「一里塚」)(図1)

滑川市の海岸部、旧北陸街道沿いに所在する一里塚は、富山町から4里の位置にある。塚は陸側の1基が残る。塚上には5基一式の石塔群が置かれ、主標となる奥中央の石塔は「法華塔」と陰刻のある笠付方形の一字一石塔である。他の4基はこれに付随する。

石塔1は、高さ7尺6寸(230.3cm)で、上から宝珠・笠・軸・蓮台・基礎2段・基壇2段の8段構成である。宝珠は球形で先端は欠損する。笠は唐破風形で、破風上部に獅子口、下部には懸魚が付く。破風板は3段である。獅子口の中央には宝珠、懸魚の中心には円形浮彫の中に卍形の陰刻が付く。屋根は緩やかな向くり形で軒反はない。軸は方柱形の板碑で、正面は額の中を一段彫り下げ、「法華塔」を丸字楷書で陰刻する。彫りは深く最大3cmである。右側面には「日月清明国土昇平／皇風永扇兆民頓誠」、左側面には「字字円頓久遠成功／石石実相寿命[月+廣]空」とある。語句は「仏説無量寿経」(T0360)「諸回向清規」(T2578)等の経文から引用し造文したと思われる。裏面には「天明二秋彼岸日／徳城本大愚慎誌」とあり、天明2年(1786)滑川市四間町の曹洞宗神明山徳城寺の18世大愚厚本住職〔滑川町役場編1913〕が謹誌して造立したことを記す。蓮台は平面方形で、蓮弁は主弁6葉×2段、間弁6葉の計18葉である。主弁先端は突出して反る。基礎は2段で、上段は側面4面ともに周囲を0.8寸幅で縁取る。内側は一段高く、ハツリ痕・ピシャン叩きによる簾状叩き痕をわずかに残す。下段は切石2石を横置き、正面には面一杯に「福德」と篆書体で彫る。裏面右には「化主/宜謙」とある。化主とは高德の僧を意味し、大愚住職の関係僧あるいは徳城

表1 伝助製作石造物一覽

番号	在銘年号		所在地	寺院情報	種類	石工名表記	石材	備考
	和暦	西暦						
1	天明2	1782	滑川市坪川市史跡一里塚	曹洞宗神明山徳城寺	一字一石塔	石工/富城 伝助	安山岩	5基一式
2	寛政8	1796	富山市堀川町	真言宗日養山神宮寺	宝篋印塔	富城/石工/伝助	安山岩	寛政12年上野氏寄進燈籠付随

寺ゆかりの僧と思われる。裏面左側には「富城／石工／伝助」とある。基礎より上は安山岩である。基壇は花崗岩切石で、下の台石は、花崗岩玉石半割品を横置きする。上面の本体基壇との合端部分はハツリ整形で平らにする。側面に礫表皮を残す。

石塔 1 の左右には、円頂方形の石塔 2・3 が置かれる。同寸同大で刻銘のみが異なる。軸は円頂方形の板碑である。右の石塔 2 の軸には、正面「阿弥陀如来」裏面「乃至法界平等利益」、左の石塔 3 の軸には、正面「観世音菩薩」裏面「十方施主三世安楽」と陰刻がある。蓮台は石塔 1 と同型式である。基礎は方形切石である。台石は石塔 1 と同様花崗岩玉石を輪切りして横置きしたもので、矢穴列と矢穴痕が残る。

一里塚上の前部には、円板形の石塔 4・5 が左右に置かれる。右の碑には正面「不動」裏面「万神」、左の碑には正面「大黒」裏面「諸天」とある。方形基礎上面に長方形の穴があり、そこに碑下部をはめ込む。台石は花崗岩玉石を輪切りして横置きする。矢穴が残る。

法華塔を除く 4 基は、如来・菩薩・明王・天部といったすべての仏像形を包括表示し、それを代表する形で正面に 1 尊の名称が表示されている形態と理解される。

(2) 富山市堀川町神宮寺墓地宝篋印塔 (図 2)

真言宗日養山神宮寺の南東 300m の神宮寺住職墓地内に所在する。宝篋印塔は寛政 8 (1796) 年に造立された。相輪・笠・塔身 4 段・基礎 3 段・板石組基壇 2 段の計 11 段構成である。相輪の上半分・軸 1・請花が欠落する。本体高さは、推定高 87.25 寸 (264.4cm) である。基壇はコンクリート上にあり、当初の位置は不明である。相輪は九輪 5 段目より上を欠失する。九輪の径は上下でほぼ同じで、輪間の掘り込みは浅い。下部請花は花卉の上縁が花頭形になり、弁縁は縁取がされ盛り上がる。笠は軒上 2 段軒下 2 段であり、上 3 段は階段状である。軒の正面には、円の中に木瓜紋の彫り込みがあり、「丸に木瓜」紋の家紋と思われる。隅飾突起は、57.5°の角度で外側へ広がり、内側は弧状である。隅飾突起外面の文様は、突起上端のみ輪郭を巻いた弧下端が渦巻状となる。塔身は軸 1 を欠失し、反花、



図 1 坪川一字一石塔

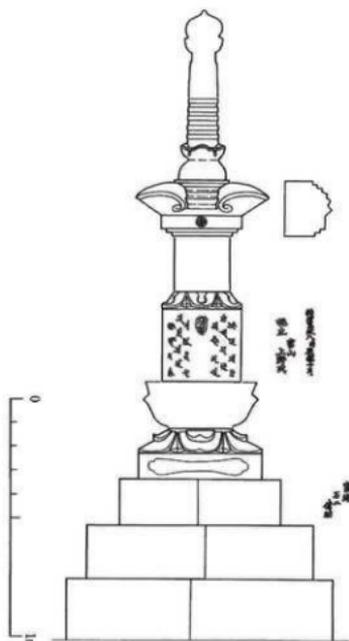


図 2 神宮寺宝篋印塔

表2 神宮寺宝篋印塔規格

区分	部位	高さ		幅		石材	備考
		寸	cm	寸	cm		
相輪		23.5	71.2	6.6	20.0	安山岩	上半欠損。推定高
	笠	7.76	23.5	15	45.5	立山天狗山石	軒上6段、軒下2段。隅飾突起外傾角67.5°
塔身	軸1	7.5	22.7	7	21.2		欠損。推定高・推定幅
	反花	2.3	7.0	11	33.3		軸2と1石
	軸2	10.2	30.9	11	33.3	立山天狗山石	正面梵字「シッチリア」の左右に光明真言梵字、裏面造立年・施主
	請花	6.5	19.7	16	48.5		欠損。推定高・推定幅
基礎	反花	3.4	10.3	16.5	50.0	安山岩	基礎と1石
	基礎1	3.6	10.9	16.5	50.0		正面に額彫り込み
基壇	基礎1	6.4	19.4	22.5	68.2	安山岩	2石組。右側面に石工名刻銘
	基壇2	7.5	22.7	31.5	95.4	安山岩	6石組
	基壇3	8.6	26.1	37	112.1	安山岩	7石組
計		87.25	264.4				

饅頭形、軸2、請花の順となる。反花は、主弁8葉で間に間弁を置き計12葉である。主弁は丸く、内側は達磨形に浅く彫り込む。間弁はやや厚い。軸2は4面に刻銘がある。正面は、中央にやや大きく梵字種子「シッチリア」(宝篋印陀羅尼)を陰刻し、左右に3行ずつ光明真言梵字を陰刻する。右側面は「維時寛政八丙辰歳十月/施主 富山 上野氏」とあり、寛政8年(1797)に富山城下町在住の上野氏が造立したことを記す。裏面・左側面には2人ずつ計4人の戒名がある。居士1・大師2・童子1で、造立者上野氏の肉親と推定される。基礎上段の反花は主弁8葉で上下2段である。間に間弁を置き計24葉である。下段は方形壇で、側面は四面ともに横長額形を陰刻し、中は無文とする。額形の長辺中央の幅を狭くし、装飾性を高めている。基壇は切石による3段の階段状方形壇である。1段目は2石を置き、右側面の右側に「富城/石工/伝助」と石工名を刻銘する。2段目は6石、3段目は7石である。

この宝篋印塔は、寛政8年富山城下町に住む上野氏により神宮寺に寄進された。神宮寺過去帳によれば、その年は43世寂秀法印代であり、死去1年余り前の造立となる。

宝篋印塔の正面右横には四角型燈籠1基がある(図3)。竿正面には「寛政十二庚申年九月吉日/上野絶父謹具」とあり、奉納者上野氏の亡父供養のため、寛政12年造立した経緯を記す。造立は宝篋印塔造立の4年1か月後で、宝篋印塔造立者上野氏とは同一人物またはその子で、宝篋印塔に追贈したものである。伝助の製作か否かは不明。上野氏とは、中世太田保の国人上野彦次郎の末裔である金泉寺屋市郎右衛門とされる〔堀川町町内会編2010〕。

3 伝助についての分析

(1) 刻銘(図4) 2基の石造物における刻銘は、いずれも「石工」・工房所在地・石工名前の3語句が表記される。順序や字体は異なり、別人の筆跡とみられる。いずれも本体石造物の刻銘文字と一連の筆跡であることから、その下書者(僧職者等)が、石工銘も含めて下

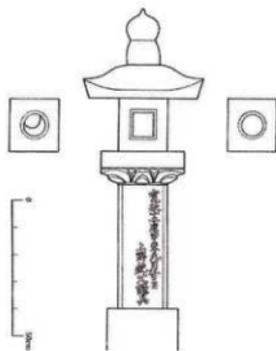


図3 上野氏奉納燈籠



図4 石工名刻銘

上: 坪川 下: 神宮寺

書きし、それを伝助が彫ったと理解しておく。
 (2)分布 2基のみの分布であるが、工房がある富山城下町内には製作品がなく、1里離れた城下町の南方近傍地、4里離れた一里塚等がある。佐伯伝右衛門も同じ傾向である(古川 2013)。

4 伝助の評価

伝助は、富山町石工のうち石工名刻銘を行った最も古い石工である。伝助は墓石に近い型式の石塔から始まり、その造形の完成度は高い。宝篋印塔は佐伯伝右衛門の方が早く、10年遅れる。伝右衛門の精巧な宝篋印塔とは造形が異なるものの、伝助の石塔も以後主流となる基壇階段状の宝篋印塔型式の様相を完備しており、造形の完成度も高い。よって伝助は、佐伯伝右衛門とともに、初期富山町石工として以後の富山中央部の石造物製作の技術伝統の基礎を築いた石工と評価できる。

なお、伝助の名前は、佐伯伝右衛門と同じ「伝」である。年代差から伝右衛門が伝助から「伝」の一字をもらい独立したと考えられるが、伝右衛門は苗字・通称・名前ともに名乗る、当初から自ら「大石工」と表記するなど格式の高さを意識していることから、伝助と伝右衛門の両者に共通する棟梁(伝右衛門)が存在し、伝右衛門側が正統な後継者として襲名したとも理解される。今後資料の蓄積を待つて解明する必要がある。

おわりに

伝助の製作品における特徴の抽出や他石工との様式比較については十分な分析ができていない。今後の課題としておきたい。

本稿作成にあたり、平井一雄氏、東葉寺ご住職、神宮寺ご住職のご理解ご協力を得た。記して謝意を申し上げる。

文献

- 尾田武雄 1995 「芹谷山千光寺周辺の石造物中間調査報告」『土蔵』第8号 砺波郷土資料館 土蔵友の会
 富山市教育委員会埋蔵文化財センター編 2014 『富山市内石造物等調査報告書Ⅲ』
 滑川町役場編 1913 『滑川町誌』
 古川知明 2012a 「近世富山町石工について」『富山市の遺跡物語』第13号
 古川知明 2012b 「富山県東部における近世石造物研究—主に石工研究から—」『北陸の石造物—研究の現状と課題—』石造物研究会
 古川知明 2013 「富山町石工佐伯伝右衛門について」『富山市の遺跡物語』第14号
 堀川町町内会編 2010 『堀川町町誌』

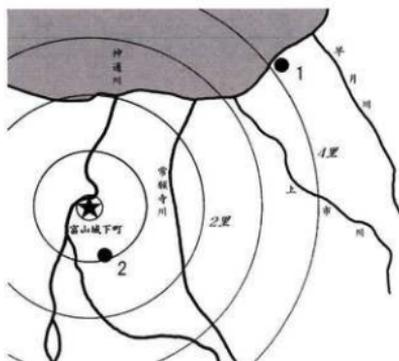


図5 伝助分布図

富山市教育委員会埋蔵文化財センター所報
富山市の遺跡物語 第16号

平成27(2015)年3月31日

編集・発行 富山市教育委員会埋蔵文化財センター

〒930-0091 富山市愛宕町1-2-24

TEL076-442-4246 FAX076-442-5810

E-mail:maizoubunka-01@city.toyama.lg.jp

印刷：有限会社ヤツオ印刷